

令和7年度 厚生労働省委託事業
生活困窮者自立支援制度人材養成における
現任者向け研修・広報啓発一式
事業実績報告書



令和8年3月
一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

はじめに

生活困窮者自立支援法が施行されて11年、現実の厳しさが増す中でその役割がさらに増している。今後の社会情勢を見据えて検討された「地域共生社会の在り方検討会議」の中間とりまとめにおいて、生活困窮者自立支援制度が地域共生社会実現のためのメインシステムと改めて位置付けられ、その強化が求められている。

令和7年度の法改正に向けた議論においても、人が人を支える生活困窮者自立支援制度において、支援員は生活困窮者自立支援法の理念に基づく支援を支える重要な基盤であり、支援員の質の向上はもとより、バーンアウトを防ぐことが重要とされた。しかし、支援員として経験を積む中で、適切な指導・教育を受けられないことによる対人援助業務への意欲や目的意識の低下が懸念されている現状がある。その解決策の一つとして現任者向けの研修を実施することとなった。

令和6年度に厚生労働省において、自立相談支援事業等に従事する支援員が、自己の能力開発や上司・先輩支援員とのコミュニケーションをとおして対人援助業務への意欲や目的意識の向上を図ることができるよう、具体的な方策について分かりやすくまとめたハンドブック等が作成された。そこには、生活困窮者自立支援制度の相談支援を行う支援者として獲得したい能力や姿勢について整理されたキャリアラダーが明文化されている。加えて、キャリアラダーを踏まえた2年程度の経験のある現任者を対象とした現任者向け研修カリキュラムが作成されている。

現任者向け研修カリキュラムに基づいた研修を実施することとおして、制度の基本理念を具現化するために地域の中で必要な連携を図りながらチームとして支援が行える人材を育成することを目的としている。

現任者向けのグループワーク中心の対面研修を6ブロックで実施するために、運営企画委員をはじめ、各ブロックの研修企画部会委員、講師の皆様にご協力いただき、受託後実施までの短期間で何度も打ち合わせを重ね、準備を行った。最初の実施となった東海・北陸ブロックの報告を受けて、研修の流れや運営の微修正を行いながら実施した。

研修受講者から高評価が得られる充実した研修を実施することができたのは、委員・講師の皆さまのご尽力の賜物であったと、改めて感謝申し上げたい。

令和8年3月
一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

目次

1. 事業概要	1
2. 目的	1
3. 運営企画委員会・研修企画部会	1
(1) 運営企画委員会	
(2) 研修企画部会	
4. 研修の実施方法及び内容	4
(1) 研修の実施方法・対象者・開催日程・受講者数等について	
(2) 研修内容について	
(3) 講師の選定について	
(4) 各ブロックのプログラムと講師	
(5) 事例・研修資料について	
(6) 研修当日までの準備と当日の運営	
(7) 研修受講受付、受講者名簿等の作成・管理、参加証明書の発行	
(8) 受講状況	
(9) アンケートについて	
5. 成果と課題	17
(1) 各ブロックの研修企画委員会、運営企画部会の振り返り	
(2) 受講者アンケート、各ブロック研修企画委員会、企画運営委員会 を踏まえた成果と次年度に向けて	
6. スケジュール	21
7. 事業運営・実施体制	23
8. 資料	24
(1) 募集要項	
(2) 申込期間延長案内チラシ（九州・沖縄ブロックの例）	
(3) 当日配布資料	
① 2日目の事例	
② ワークシート	
(4) 当日の研修の様子	
(5) アンケート結果（ブロック別）	

1. 事業概要

現任者を対象とした、支援現場の実践につながるグループワークを中心とした2日間の対面研修を、全国の47都道府県を6ブロックに分け、令和7年12月から令和8年1月にかけて各ブロックで実施した。講義と演習を通して制度の理念や自身の実践を再確認し、事例を通して支援対象者への理解を深め、効果的な連携やノウハウの共有などを学び合い、チームアプローチの実践を支援現場に持ち帰ることができるようなプログラムの現任者向け研修（以下、ステップアップ研修）には、549名の参加があった。

6ブロックは以下の通り。

ブロック	都道府県区分
北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東・甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海・北陸	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

2. 目的

ステップアップ研修は、本制度に関わる全国の行政職員や相談対応等の支援に従事する支援員の資質向上、支援ノウハウの伝達、支援員同士の横のつながりや交流の機会等、支援員を支える仕組みづくりにつながるよう、下記のような人材を育成することを目的として実施する。

- ①困窮者支援を通じた「地域づくり」を具体的に展開できるような人材となる。
- ②自らの支援や制度の理解を深め、自らの言葉で説明して研修を行うことができる人材となる。
- ③支え合い、学び合う風土を作ることができる人材となる。

研修を通じて、多様で複合的な課題を有する生活困窮者への支援が全国で適切に行われることを最終目的とする。

3. 運営企画委員会・研修企画部会

(1) 運営企画委員会

現任者研修全体を統括する運営企画委員会を設置し、委員会を2回実施した。

1) 運営企画委員会の役割

- ・委員の互選で委員長を決定する。
- ・各ブロックの研修企画部会や厚生労働省と相談しながら、研修企画と講師を決定する。
- ・運営企画委員は各ブロックの研修企画部会の部会長を兼任する。

- ・必要に応じて研修講師や研修当日の運営をサポートする。

2) 運営企画委員

運営企画委員が研修企画部会の部会長を兼任するため、各ブロックから実践者と学識者2名の計12名の委員を選定し、厚生労働省3名を加えた計15名の委員の構成とした。運営企画委員は下記の通り。

第1回運営企画委員会にて、原田委員を委員長、新保委員を副委員長に選任した。

北海道・東北ブロック

実践者 櫛部 武俊 (一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 代表理事)

学識者 菅野 拓 (大阪公立大学 准教授)

関東・甲信越ブロック

実践者 平田 智子 (NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 理事長)

学識者 鍋木奈津子 (上智大学 准教授)

東海・北陸ブロック

実践者 鈴木 晶子 (認定NPO法人フリースペースたまりば 理事)

学識者 原田 正樹 (日本福祉大学 学長) ※委員長

近畿ブロック

実践者 高橋 尚子 (一般社団法人京都自立就労サポートセンター 理事)

学識者 五石 敬路 (大阪公立大学 教授)

中国・四国ブロック

実践者 生水 裕美 (生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事)

学識者 新保 美香 (明治学院大学 教授) ※副委員長

九州・沖縄ブロック

実践者 奥田 知志 (認定NPO法人抱樸 理事長)

実践者 行岡みち子 (グリーンコープ生活協同組合連合会生活再生事業推進室長)

厚生労働省

小川 孝昭 (生活困窮者自立支援室 室長補佐)

鈴木 由美 (生活困窮者自立支援室 就労支援専門官)

坂本 和香 (生活困窮者自立支援室 就労支援係)

3) 実施日程

第1回運営企画委員会 9月28日(日)

第2回運営企画委員会 3月19日(木)

(2) 研修企画部会

各ブロックの研修を実施するために、運営企画委員会の下に、各ブロックに研修企画部会を設置し、各部会を2~3回実施した。

1) 研修企画部会の役割

- ・現任者向け研修カリキュラムに基づき、各地域の実態に沿った研修となるように研修プログラムを調整し、運営企画委員会に相談しながら講師を選定する。
- ・研修企画部会は、現任者向け研修カリキュラムにおいて作成された研修の実施方針や各科目の獲得目標、運営企画委員会での意見やその社会背景を講師が理解した上で、教材や講義内容に反映させるために事前のオリエンテーションを実施する。

2) 研修企画部会委員

部会の構成は、各ブロックの運営企画委員2名、開催地の行政職員1名、実践者2名の計5名を基本とした。人選にあたっては、前年度までの「ブロック別研修」や「自治体・支援員向けコンサルティング」、「生活困窮者自立支援全国研究交流大会」の講師等と開催地の行政職員を候補者とした。候補者について運営企画委員会で検討して、委員を選定した。

各ブロックの運営企画委員会の委員2名のうち1名は研修企画部会の部会長となり、もう1名は副部会長として部会長をサポートする体制とした。

① 北海道・東北ブロック研修企画部会

部会長 櫛部 武俊 (一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 代表理事)
副部会長 菅野 拓 (大阪公立大学 准教授)
委員 立岡 学 (NPO法人ワンファミリー仙台 理事長)
安藤 貴志 (NPO法人ワンファミリー仙台 地域福祉課長)
柳谷 君予 (特定非営利活動法人ワークフェア 代表理事)

② 関東・甲信越ブロック研修企画部会

部会長 鍋木奈津子 (上智大学 准教授)
副部会長 平田 智子 (ユニバーサル就労ネットちば 理事長)
委員 犬飼 俊介 (東京都福祉局生活福祉部地域福祉課 課長代理)
松浦 拓郎 (横浜市中区役所中福祉保健センター生活支援課 生活支援担当課長)

③ 東海・北陸ブロック研修企画部会

部会長 原田 正樹 (日本福祉大学 学長)
副部会長 鈴木 晶子 (認定NPO法人フリースペースたまりば 理事)
委員 出口 加奈 (愛知県福祉局福祉部地域福祉課生活困窮者支援グループ 主任)

④ 近畿ブロック研修企画部会

部会長 高橋 尚子 (一般社団法人京都自立就労サポートセンター 理事)
副部会長 五石 敬路 (大阪公立大学 教授)
委員 大里 祥 (大阪市西淀川区役所保健福祉課(総合福祉)担当係長)
有田 朗 (一般社団法人京都自立就労サポートセンター)
足利 健二 (奈良県社会福祉協議会)

⑤ 中国・四国ブロック研修企画部会

部会長 新保 美香 (明治学院大学 教授)
副部会長 生水 裕美 (生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事)
委員 岩村 正裕 (愛媛県宇和島市高齢者福祉課長兼地域包括支援センター所長)
保本 闘志 (岡山県岡山市保健福祉局 主査)

⑥ 九州・沖縄ブロック研修企画部会

部会長 奥田 知志 (認定NPO法人抱樸 理事長)
副部会長 行岡みち子 (グリーンコープ生活協同組合連合会 生活再生事業推進室長)
委員 滝澤 明也 (福岡県福祉労働部保護・援護課 課長)
濱里 正史 (沖縄県就労・生活支援パーソナルサポートセンター北部)
谷口 仁史 (認定NPO法人スチューデント・サポート・フェイス 代表理事)

3) 実施日程

北海道・東北ブロック第1回研修企画部会	11月12日(水)
北海道・東北ブロック第2回研修企画部会	2月19日(月)
関東・甲信越ブロック第1回研修企画部会	11月5日(水)
関東・甲信越ブロック第2回研修企画部会	2月19日(月)
東海・北陸ブロック第1回研修企画部会	10月14日(火)
東海・北陸ブロック第2回研修企画部会	2月19日(木)
近畿ブロック第1回研修企画部会	10月12日(日)
近畿ブロック第2回研修企画部会	10月27日(月)
近畿ブロック第3回研修企画部会	2月9日(月)
中国・四国ブロック第1回研修企画部会	10月23日(木)
中国・四国ブロック第2回研修企画部会	2月20日(金)
九州・沖縄ブロック第1回研修企画部会	11月4日(火)
九州・沖縄ブロック第2回研修企画部会	2月20日(金)

4. 研修の実施方法及び内容

(1) 研修の実施方法・対象者・開催日程・受講者数等について

1) 実施方法・会場について

グループワークを中心とした参加型研修のため、2日間かけて対面で実施とし、会場は各ブロックの交通アクセスのよい都市とした。

令和7年12月～令和8年1月にかけて、各ブロックの定員を100名とし、グループワークが可能な広さの会場の確保に努め、要件を満たす会場が確保できた下表の日程での実施となった。

ブロック	開催日程・会場
北海道・東北	令和8年 1月22日(木)～23日(金) 仙台市／仙台国際センター (宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)
関東・甲信越	令和7年12月18日(木)～19日(金) 東京都・港区／ビジョンセンターグランデ東京浜松町 (東京都港区芝大門1-13-9 UD 芝大門ビル)
東海・北陸	令和7年12月4日(木)～5日(金) 名古屋市／リファレンス名古屋栄貸会議室ナディアパーク (愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク 9F)
近畿	令和7年12月11日(木)～12日(金) 大阪市／グランキューブ大阪 (大阪府大阪市北区中之島5-3-51)
中国・四国	令和8年 1月29日(木)～30日(金) 岡山市／ターミナルスクエア (岡山県岡山市北区駅元町1番4号 スクエアビル)
九州・沖縄	令和8年 1月15日(木)～16日(金) 福岡市／九州ビル (福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-31)

2) 対象者・受講者数

対象者は、2年程度の実務経験があり、且つ国研修や都道府県研修を受講した者を基本とした。ただし、厚生労働省と協議して、受講者定員の範囲で、何らかの事情で国研修や都道府県研修等を受講できなかった初任者等、事業の趣旨・目的に合致する者も幅広く参加できるようにした。

加えて、都道府県区分に該当するブロックでの受講を基本とするが、該当ブロックの開催日程では参加が難しい場合には、別ブロックでの受講可能とする。定員超過が見込まれるブロックでは参加者の人数調整を行うこととした。

3) 開催要項の発出、参加集約

2日間の対面研修のため、できるだけ早く日程・会場等の研修案内が必要と考え、9月10日に厚生労働省より、日程・場所を案内する事務連絡を発出し、9月19日には都道府県へ募集要項を電子メールで送付した。募集要項には、令和6年度に明文化された現任者向け研修カリキュラム等を掲載した。都道府県には管内自治体及びそれぞれの委託先への案内を依頼したが、当ネットワークが厚生労働省委託事業として運営している「困窮者支援情報共有サイト」のID登録自治体(906自治体)へも9月22日に電子メールを送付して、重ねて案内をした。

受講申込の方法は、当初都道府県へ取りまとめの依頼を予定していたが、取りまとめの時間的余裕がなく、任意研修ということもあり、厚生労働省と協議の上、受講者本人が申し込みをする方法とした。具体的には google フォームに、下記の項目について、期限までに各自で申し込んでもらうようにした。

(参考：申込フォームの入力項目)

氏名	氏名(ふりがな)	メールアドレス	電話番号(連絡先)
都道府県・自治体名	所属先	所属名・職種	
現在従事している事業	これまでに経験した事業	従事期間(通算)	
研修会の参加について(2日間・1日目のみ・2日目のみ)			
2日目の専門分野別事例検討の希望事業([第1希望][第2希望])			

(2) 研修内容について

1) 研修の科目、時間数及び内容について

現任者向け研修カリキュラムに基づいて、6つの獲得目標を踏まえた研修プログラムの大枠を運営企画委員会で検討し、決定した。

2) 研修の獲得目標は、次の6点。

- ①制度の歴史変遷、意義や理念、支援員の倫理と基本姿勢、支援のかたちについて理解し、理念を具現化すべく実践する。
- ②常に謙虚に、自分自身の価値観、支援員としての倫理観を見直し続けることができる。
- ③生活困窮者の対象像やその背景(冰山モデルや時代の影響)について理解できる。
- ④制度の各事業についての基本的な支援プロセスやそれぞれの事業の意義や支援手法、関連施策について理解し、実践に活かすことができる。
- ⑤多様な組織や人、地域と関わることの意義や効果を理解し、生活困窮者支援を通じて地域づくりを具体的に実践する。

⑥各職種の役割を理解し、それぞれの立場から支え合う組織運営に寄与することができる。

3) 研修プログラム (大枠)

- 1 日目：事業混合のグループに分かれて、講義・演習をとおして、制度の理念や自身の実践を再確認し、言語化できるようにする。
- ・生活困窮者自立支援制度の理念、生活困窮者支援を通じた地域づくりについて講義とグループワークで理解を深める。
 - ・支援員を支える仕組みやメンタルケアについて学び、支援員同士のピアサポートをとおして支援員としてのこれまでの振り返り、今後の目標を定める。
- 2 日目：事例をとおして支援対象者への理解を深め、効果的な連携やノウハウの共有などを学び合い、チームアプローチを試みる。
- ・事業混合のグループ、事業別専門講座、事業混合グループ
- 3 段階の事例検討を通して、支援対象者への理解を深めることができるような事例検討を行い、事業別専門講座での学びを分かち合い、様々な人や場所との連携の可能性を探り、チームアプローチこそが地域づくりにつながることを学び合う。

(3) 講師の選定について

1 日目の講義は各ブロックの研修企画部会委員やブロック内の行政職員・支援員、2 日目の事例検討の各専門事業別を含むファシリテーターはブロック内のこれからを担っていく世代を意識して、各研修企画部会で、各委員より講師候補者を挙げて、検討した。候補者の検討・打診から実施日までの期間が2ヶ月程度と短い中での講師選定は難航を極めたが、引き受けていただいた講師や研修企画部会委員の協力を得て講師体制を確保することができた。

会場確保の関係で日程が決まっている中で研修当日まで短期間での研修企画部会委員、講師の選定となったため、研修企画委員や講師によっては、2日間の参加が難しい状況が生じた。

(4) 各ブロックのプログラムと講師 ※実施日順

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(東海・北陸ブロック) プログラム				
■1日目 12月4日(木)				
プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55~10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00~10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について 日本福祉大学 学長 原田 正樹
	10:45~11:25	40分	演習	グループワーク
	11:25~11:55	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 社会福祉法人半田市社会福祉協議会 主査(コミュニティソーシャルワーカー) 前山 憲一
	11:55~12:30	35分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて ~わかる・つながる・支え 合う~	13:30~14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15~14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40~14:50	10分	休憩	
	14:50~15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み~チーム支援と支援員のメンタルヘルス~ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30~16:00	30分	演習	グループワーク
	16:00~16:10	10分	休憩	
	16:10~17:00	50分	演習	
まとめ	17:00~17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15~17:20	5分		事務連絡
■2日目 12月5日(金)				
プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00~10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現在から)	10:05~11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループで意見交換 愛知県福祉局福祉部地域福祉課 生活困窮者支援グループ 主任 出口 加奈 認定NPO法人フリースペースたまりば 事務局長/理事 鈴木 晶子
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35~14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループで意見交換、講師コメント・解説 ①自立相談 東海市役所市民福祉部社会福祉課 統括主任 井上 綾 ②就労 知多市社会福祉協議会 住宅支援課 課長 山口 尚男 一般社団法人サポートネットゆっか 代表理事 井上 朋子 ③家計改善 坂井市健康福祉部福祉総合相談課 主査(社会福祉士) 斉藤 正晃 ④居住 特定非営利活動法人くらし応援ネットワーク 地域居住支援事業立上げ担当 丹羽 宏太 ⑤子ども 中京大学心理学部 教授 吉住 隆弘
休憩	14:15~14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考える	14:30~15:45	75分	演習	事例検討③ ・5専門事業の検討内容を全体で共有 ・事例検討①の事業混合グループに戻る ・各自でプランをまとめる。
まとめ	15:45~16:00	15分		1日の振り返り

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(近畿ブロック) プログラム

■1日目 12月11日(木)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55～10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00～10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について 舞鶴市福祉部 部長 日柴喜 俊暁
	10:45～11:25	40分	演習	グループワーク
	11:25～11:55	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 大阪公立大学 教授 五石 敬路
	11:55～12:30	35分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～	13:30～14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15～14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40～14:50	10分	休憩	
	14:50～15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30～16:00	30分	演習	
	16:00～16:10	10分	休憩	グループワーク 社会福祉法人奈良県社会福祉協議会 主幹 足利 健二
	16:10～17:00	50分	演習	
まとめ	17:00～17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15～17:20	5分		事務連絡

■2日目 12月12日(金)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00～10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現在から)	10:05～11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループ ファシリテーション: 大阪市西淀川区役所保健福祉課 係長 大里 祥
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35～14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループ ①自立相談・子ども: 宇治市福祉こども部地域福祉課 主任 島川 誠也 京丹後市健康長寿福祉部生活福祉課 寄り添い支援総合サポートセンター 主事 中村 肇 ②就労: 豊中市役所市民協働部くらし支援課雇用労働係 豊中しごとくらしセンター 就労支援チーム チームリーダー 松井 貴子 ③家計改善: 一般社団法人京都自立就労サポートセンター 主任 有田 朗 ④居住: 一般社団法人京都自立就労サポートセンター 副センター長/理事 高橋 尚子
休憩	14:15～14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考える	14:30～15:45	75分	演習	事例検討③ 事例検討①の事業混合グループに戻る
まとめ	15:45～16:00	15分		1日の振り返り

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(関東・甲信越ブロック) プログラム

■1日目 12月18日(木)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55～10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00～10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について 東京都福祉局生活福祉部地域福祉課 課長代理(生活困窮者対策担当) 犬飼 俊介
	10:45～11:20	35分	演習	グループワーク
	11:20～11:30	10分	休憩	
	11:30～12:00	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 横浜市中区役所 中福祉保健センター生活支援課 生活支援担当 課長 松浦 拓郎
	12:00～12:30	30分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～	13:30～14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15～14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40～14:50	10分	休憩	
	14:50～15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30～16:00	30分	演習	
	16:00～16:10	10分	休憩	グループワーク
	16:10～17:00	50分	演習	
まとめ	17:00～17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15～17:20	5分		事務連絡

■2日目 12月19日(金)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00～10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現状から)	10:05～11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループ ファンリテーション: NPO法人ユニバーサル就労ネットワークちば 理事長 平田 智子 上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科准教授 鈴木 奈津子
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35～14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループ ①自立相談: 西東京市健康福祉部 地域共生課 相談窓口係 福祉丸ごと相談窓口 課長補佐 兼 相談窓口係長 主任相談支援員 後藤 紀行 特定非営利活動法人リンク 理事長 吉井 稔 ②就労: 社会福祉法人千楽 浦安市就労準備支援・ひきこもり相談事業責任者 和田 千鶴子 ③家計改善: 生活クラブ生活協同組合(神奈川) たすけあいネットワーク事業部次長 兼 ソーシャルインクルージョン推進室室長 川澄 弥恵 ④居住: 座間市 福祉部参事 兼 地域福祉課長 林 星一 ⑤子ども: 特定非営利活動法人サードプレイス 代表理事 須田 洋平
休憩	14:15～14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考える	14:30～15:45	75分	演習	事例検討③ 事例検討①の事業混合グループに戻る
まとめ	15:45～16:00	15分		1日の振り返り

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(九州・沖縄ブロック) プログラム

■1日目 1月15日(木)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55～10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00～10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について 生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事 谷口 仁史
	10:45～11:20	35分	演習	グループワーク
	11:20～11:30	10分	休憩	
	11:30～12:00	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 公益社団法人沖縄県労働者福祉基金協会 沖縄県 就職・生活支援パーソナルサポートセンター 北部 相談支援員 濱里 正史
	12:00～12:30	30分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～	13:30～14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15～14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40～14:50	10分	休憩	
	14:50～15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30～16:00	30分	演習	グループワーク
	16:00～16:10	10分	休憩	
	16:10～17:00	50分	演習	
まとめ	17:00～17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15～17:20	5分		事務連絡

■2日目 1月16日(金)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00～10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現状から)	10:05～11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループ ファンレーション:生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事 奥田 知志 生活困窮者自立支援全国ネットワーク 事務局長 行岡 みち子
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35～14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループ ①自立相談:佐賀市生活自立支援センター 主任相談支援員 壽山 葉子 ②就労:公益社団法人沖縄県労働者福祉基金協会 沖縄県 生活困窮者等就労準備支援事業 責任者 喜納 圭太郎 社会福祉法人グリーンコープ 生活再生支援事業福岡県本部 部長 早野 誠 ③家計改善:社会福祉法人グリーンコープ(熊本)家計改善支援員 高濱 千夏 ④居住:NPO法人抱樸 常務理事 山田 耕司 ⑤子ども:特定非営利活動法人 わたしと僕の夢 相談支援員 日下 慈
休憩	14:15～14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考える	14:30～15:45	75分	演習	事例検討③ 事例検討①の事業混合グループに戻る
まとめ	15:45～16:00	15分		1日の振り返り

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(北海道・東北ブロック) プログラム

■1日目 1月22日(木)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55～10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00～10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について NPO法人ワンファミリー仙台 地域福祉課長 安藤 貴志
	10:45～11:20	35分	演習	グループワーク
	11:20～11:30	10分	休憩	
	11:30～12:00	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 特定非営利活動法人ワークフェア 代表理事 柳谷 君予
	12:00～12:30	30分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて ～わかる・つながる・ 支え合う～	13:30～14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15～14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40～14:50	10分	休憩	
	14:50～15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30～16:00	30分	演習	グループワーク
	16:00～16:10	10分	休憩	
	16:10～17:00	50分	演習	
まとめ	17:00～17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15～17:20	5分		事務連絡

■2日目 1月23日(金)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00～10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現 から)	10:05～11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループ ファミリーデーション:(一社)パーソナルサポートセンター 仙台市生活自立・仕事相談センター「わんすてっぷ」センター長 佐藤 圭司 生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事 榑部 武俊 (一社)パーソナルサポートセンター 自立相談支援部 部長 平井 智則
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35～14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループ ①自立相談:(一社)パーソナルサポートセンター 名取市生活困窮者自立相談支援センター センター長 三浦 志津江 ②就労:NPO法人ワンファミリー仙台 地域福祉課長 安藤 貴志 ③家計改善:認定非営利活動法人インクルいわて 理事長 山屋 理恵 ④居住:NPO法人コミュニティワーク研究実践センター 事務局長 湯澤 真吾 ⑤子ども:NPO法人アスイク相談支援スタッフ 吉田 彩乃
休憩	14:15～14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考 える	14:30～15:45	75分	演習	事例検討③ 事例検討①の事業混合グループに戻る
まとめ	15:45～16:00	15分		1日の振り返り

令和7年度 現任者向け:ステップアップ研修(中国・四国ブロック) プログラム

■1日目 1月29日(木)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
挨拶	9:55～10:00	5分		厚生労働省挨拶
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する。	10:00～10:45	45分	講義①	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について 岡山県立大学 保健福祉学部現代福祉学科 准教授 口村 淳
	10:45～11:20	35分	演習	グループワーク
	11:20～11:30	10分	休憩	
	11:30～12:00	30分	講義②	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方 愛媛県宇和島市 高齢者福祉課長 兼 地域包括支援センター所長 岩村 正裕
	12:00～12:30	30分	演習	グループワーク
昼休み				
よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～	13:30～14:15	45分	講義③	支援員としての成長、専門性の形成を考える 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	14:15～14:40	25分	演習	グループワーク
	14:40～14:50	10分	休憩	
	14:50～15:30	40分	講義④	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～ 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 就労支援専門官 鈴木 由美
	15:30～16:00	30分	演習	グループワーク
	16:00～16:10	10分	休憩	
	16:10～17:00	50分	演習	
まとめ	17:00～17:15	15分		本日のまとめ
事務連絡	17:15～17:20	5分		事務連絡

■2日目 1月30日(金)

プログラム	時間	所用時間	区分	研修内容・講師
本日の流れ	10:00～10:05	5分	説明	一日を通しての事例検討①②③について
事例検討① アセスメント(過去や現状から)	10:05～11:35	90分	演習	事例検討① 事業混合グループ ファシリテーション:生活困窮者自立支援全国ネットワーク 理事 生水 裕美 生活困窮者自立支援全国ネットワーク 代表理事 明治学院大学 社会学部社会福祉学科 教授 新保 美香
昼休み				
事例検討② 専門事業を軸に深掘り	12:35～14:15	100分	演習	事例検討② 専門事業別グループ ①自立相談:倉敷市 生活自立相談支援センター センター長 社会福祉法人めやす箱 理事・地域生活部門 統括責任者 池田 朋宏 岡山市 保健福祉局 生活保護・自立支援課 副主査 保本 嗣志 ②就労:株式会社マインズ 代表取締役社長 矢野 卓也 株式会社マインズ 第1営業部 部長 浦岡 容子 ③家計改善:社会福祉法人グリーンコープ 岡山市 家計改善支援事業所 主任家計改善支援員 宮崎 啓輔 ④居住:愛媛県宇和島市 高齢者福祉課長 兼 地域包括支援センター所長 岩村 正裕 ⑤子ども:認定NPO法人とりで 理事長 金本 秀韓
休憩	14:15～14:30	15分		
事例検討③ 本人とともに未来を考える	14:30～15:45	75分	演習	事例検討③ 事例検討①の事業混合グループに戻る
まとめ	15:45～16:00	15分		1日の振り返り

(5) 事例・研修資料について

1) 事例について

現任者向け研修カリキュラムの作成時に事例案も提案されていたが、運営企画委員会で新たな事例を作成することを決定し、運営企画委員で事例を作成した。

2) 研修資料について

① 1日目の資料について

- ・講義①「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」と講義②生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方については、厚生労働省が準備した基本資料に各講師が追加や入替などを行って、各講師に作成いただいた。
- ・講義①と②の担当講師から指定があったワークシート等。
- ・講義③と④については、令和6年度に作成された「現任者向け研修カリキュラム」に基づいて、今年度全ブロックの講師を担当された厚生労働省の鈴木由美就労支援専門官に作成いただいた。
- ・講義③と④については、キャリアサーフシートの記入シートと説明シート、ワークシート。
- ・講義①～④の講師資料は製本した冊子を準備した。

② 2日目の研修資料

- ・事例の内容に事例検討の流れワークシートの記入例を追記した事例検討資料。
- ・事例検討のワークシート。
- ・各講師や研修企画部会から指定があったワークシート等。

(6) 研修当日までの準備と当日の運営

1) 開催都道府県へ協力要請

研修会場のある都道府県のうち東京都以外の5府県へ研修の案内と管内自治体への受講の奨励等の協力を要請するために事務局で訪問した。

2) 講師オリエンテーションの実施

各ブロックの講師決定後、11月12日～令和8年1月13日にかけて、研修企画部会委員と講師、厚生労働省にて、講師オリエンテーションを行った。関係者全員の都合がつく日程調整は難しく、欠席者には録画を届け、事務局で補足説明等を必要に応じて行った。

講師オリエンテーションでは、講師の自己紹介、研修の趣旨やプログラム、研修の流れ、基本資料、2日目の事例検討の事例内容と事例検討の流れを厚生労働省及び事務局より説明し、質疑応答を行った。受講申込状況を共有し、事例検討のグループ数に応じた運営なども相談した。

各ブロックの研修企画部会や講師オリエンテーションの後、研修当日まで必要に応じてオンラインでの打ち合わせや、メール等での情報共有などを行い、関係者で準備を進めた。

3) 先に実施したブロックから後続ブロックへの情報共有

最初に実施した東海・北陸ブロックから、実施直後に詳細な報告と事例検討の進め方の詳細が運営企画委員に送付され、後に続く5ブロックの研修企画部会委員、講師に共有された。

事例検討の進め方は回を重ねるごとに改良が加えられ、関東・甲信越ブロックで作成された専門事業別のワークシートもその後のブロックで活用された。

4) 当日の運営

- ・ 1日目、2日目とも講師の打ち合わせを研修の直前に行った。
- ・ 2日間参加できる研修企画部会委員、講師はできるだけ全体を見渡して、特に2日目の事例検討のグループワークについては、ファシリテーターのサポートに当たるなど、運営側の全員がチームとなって研修を運営した。

(7) 研修受講受付、受講者名簿等の作成・管理、参加証明書の発行

1) 研修の受講受付・受講者決定

- ・ 会場や参加証明書の発行準備等を考慮して、研修実施日の4週間前を申込期限とした。関東・甲信越ブロックの申込人数が150名を超えたため、厚生労働省や当該ブロックの企画運営委員と協議して、受講者を2年目以上の支援員に限定し、2年目以下の申込者には他ブロックの受講、もしくは次年度以降の受講を案内した。
- ・ 1月実施の3ブロックについては、申込状況から定員枠に余裕があったため、12月11日に申込期間の延長を案内し、その際に研修の魅力を分かりやすく伝えるチラシを添付した。
- ・ 関東・甲信越ブロック以外については、申込者全員を受講者と決定し、申込締切日の後速やかに電子メールで受講決定と詳細の案内を行った。
- ・ 専門事業別の事例検討の希望事業に偏りがあり、「子どもの学習・生活支援事業」については、6ブロックとも1グループに満たない人数であったため、各ブロックの研修企画部会と相談し、5ブロックについては、第二希望や担当事業が「子ども」関係の方に連絡をとり「子ども」のグループの人数を調整した。近畿ブロックについては、「子ども」の希望者には自立相談支援事業に入ってもらふこととした。

2) 受講者名簿の作成・管理

申込フォームに入力された情報を基に受講者名簿を作成し、厚生労働省と委員・講師間で共有した。参加者には、グループワークのグループ分けと参加者の自治体や所属、担当事業を知らせるために、都道府県・自治体・所属・担当事業・専門事業の希望を明示した名簿を会場で配布し、研修修了時に回収した。

受講者の個人情報には十分な注意を払った上での管理を徹底した。

3) 参加証明書の発行

2日間受講した研修受講者へ参加証明書を発行し、研修修了時に講師から一人ずつ渡した。

(8) 受講状況

ブロック	北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	全体
研修日	2026年1月22(木) ～/月23(金)	2025年12月18(木) ～12月19(金)	2025年12月4(木) ～12月5(金)	2025年12月11(木) ～12月12(金)	2026年1月29(木) ～30(金)	2026年1月15(木) ～16(金)	2025年12月～2026年1月
会場	仙台国際センター 展示棟 展示室1	ビジョンセンターグランテラス京浜駅 ハンケットホール	リファレンス名古屋経済会議室ナナイ ホール(リファレンス) SK905-SK908	グランキューブ大阪(大阪府立国際会 議館)1008+1009・1005～7	岡山市ターミナルスクエア スクエアホール	福岡市九州ビル 9A8・8A	駅近くで、ブロック内から 集まりやすい会場
受講申込者数 (開催日時)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
ブロック合計	85名	116名	58名	90名	82名	118名	合計 549名
北海道	17名	4名	2名	13名	10名	49名	開催県 208名
青森県	4名	3名	3%	3%	14%	12%	208名
岩手県	11名	7名	4名	7%	2%	8%	335名
宮城県	26名	13名	12名	21%	36%	39%	61%
秋田県	7名	8%	3名	5%	9%	11%	1%
山形県	7名	8%	31名	1%	2%	17名	14%
福島県	12名	14%	2名	3%	1%	12名	10%
他B/神奈川県	1名	1%	1名	2%	9%	6名	5%
		2名	1名	2%	7名	11名	9%
		6名	1名	2%	1名	1名	1%
行政	8名	34名	14名	40名	10名	25名	行政 131名
社協	28名	36名	28名	27名	40名	29名	社協 188名
民間等	49名	46名	16名	23名	32名	64名	民間等 230名
行政	9%	29%	24%	44%	12%	21%	行政 24%
社協	33%	31%	48%	30%	45%	23%	社協 34%
民間等	58%	40%	28%	26%	39%	54%	民間等 42%
所属							
自立	43名	57名	28名	49名	32名	68名	自立 277名
就労	19名	20名	12名	16名	24名	21名	就労 112名
家計	9名	18名	10名	13名	15名	17名	家計 82名
居住	7名	12名	4名	7%	6名	7名	居住 48名
子ども	7名	7名	4名	0%	5名	5名	子ども 28名
事業別人数							
子ども	6%	6%	7%	1%	6%	4%	子ども 5%
居住	8%	10%	7%	13%	8%	6%	居住 9%
家計	11%	10%	1%	13%	18%	14%	家計 15%
就労	25%	18%	23%	18%	29%	18%	就労 20%
自立	51%	50%	48%	54%	39%	58%	自立 53%
経験年数							
1年未満	11名	0名	2名	5名	7名	9名	1年未満 34名
1～2年未満	8名	0名	5名	12名	15名	14名	1～2年未満 54名
2～3年未満	12名	32名	13名	16名	19名	21名	2～3年未満 113名
3～5年未満	21名	36名	15名	28名	18名	24名	3～5年未満 142名
5年以上	33名	46名	23名	28名	23名	50名	5年以上 203名
1年未満	13%	0%	3%	6%	9%	8%	1年未満 6%
1～2年未満	9%	0%	9%	13%	23%	12%	1～2年未満 10%
2～3年未満	14%	28%	22%	18%	23%	18%	2～3年未満 21%
3～5年未満	21%	36%	26%	31%	22%	20%	3～5年未満 26%
5年以上	39%	40%	40%	31%	28%	42%	5年以上 37%
1年未満	13%	28%	3%	6%	9%	6%	1年未満 6%
1～2年未満	9%	0%	5%	12%	23%	10%	1～2年未満 10%
2～3年未満	14%	32%	13%	16%	19%	21%	2～3年未満 21%
3～5年未満	21%	36%	26%	31%	22%	20%	3～5年未満 26%
5年以上	39%	40%	40%	31%	28%	42%	5年以上 37%

(9) アンケートについて ※実施日順

1) 研修受講者を対象としたアンケートの作成

- ・受講した研修の講義内容及び研修実施方法等について実施効果を検証できるように、各講義・演習と、全体について、5段階評価のアンケートを作成し、それぞれに「現場での実践において、活用できるといった内容を具体的に記述」する欄を設けた。
- ・研修実施後3週間以内をアンケート入力期間と案内し、回答を呼びかけた。

2) アンケート結果

- ・アンケートの回収率は58.8%に留まった。12月実施の3ブロックの回答が少ない状況を受けて、1月実施の3ブロックでアンケートの提出を呼びかけたところ、60%台の回収率となった。任意研修で提出義務を課さなかったため回収率が低かったと思われるので、次年度は研修時間にアンケート入力時間を設けるなど、回収率を上げる取り組みが必要と考える。
- ・5段階評価の平均は、4.2となり、事例検討の進め方で3点台の評価もあったが、おおむね好評だった。
- ・次年度の研修への事例提供については、24名から提供可能との回答があった。
- ・アンケート集計結果は以下の通り。

ブロック名 /設問項目	受講者数	回収率	1日目				2日目		全体			次年度に 向けて 事例提供 可能件数
			講義① 制度	講義② 地域づくり	講義③ 支援員 専門性	講義④ メンタル ヘルス	事例検討 内容	事例検討 進め方	全体内容	支援員 との交流	全体運営	
東海・北陸	58	55.1%	4.34	4.25	4.31	4.53	4.28	4.16	4.44	4.16	4.59	7
近畿	85	56.4%	4.39	4.10	4.51	4.55	4.17	3.88	4.25	4.23	4.23	3
関東・甲信越	110	50.0%	4.38	4.18	4.53	4.55	4.35	4.17	4.49	4.42	4.51	3
九州・沖縄	112	60.7%	4.43	4.41	4.50	4.67	4.47	4.28	4.57	4.40	4.47	3
北海道・東北	82	65.9%	4.43	4.19	4.50	4.56	4.46	4.33	4.44	4.39	4.43	5
中国・四国	77	64.9%	4.44	4.24	4.54	4.60	4.45	4.31	4.62	4.50	4.66	3
平均	524	58.8%	4.40	4.23	4.48	4.58	4.36	4.19	4.47	4.35	4.48	24

5. 成果と課題

(1) 各ブロックの研修企画部会、運営企画委員会の振り返り

1) 各ブロックの研修企画部会での振り返りについて ※実施日順

研修企画部会で当日の様子、成果や課題、委員の気づきなどについて、ポイントのみ記載した。

①東海・北陸ブロック

事例検討を通じて生活困窮者支援の本質に関する理解が深まり、世帯全体を捉える視点や伴走型支援、分野横断的な連携の重要性が共有される研修となった。また、講義と事例検討の連動により地域づくりの視点が参加者に浸透し、支援のあり方を見直す契機となった。さらに、今後の人材育成や地域での研修展開につながる基盤が構築された。一方で、特定の情報に議論が引きずられる傾向が見られたこと、検討する事例の情報量はどれくらいが適切なのか等、課題が出された。また、参加者の経験差による議論のばらつき、講師体制や準備期間不足による事前打合せの不十分さも課題として挙げられた。

②近畿ブロック

講義と混合グループと専門グループを組み合わせた事例検討の手法について一定の評価が得られた。一方で、事例検討の進め方が分かりにくかったという声もあった。受講者の専門性の差や思い込みにより議論が偏る傾向が見られたが、準備期間が不足していたため、ファシリテーターがグループワークの内容への介入や軌道修正が十分に行えなかった点、グループ編成の偏りなど、運営面における課題が挙げられた。ステップアップ研修を各都道府県研修に還元できるような研修企画部会委員・講師の編成の提案も出された。

③関東・甲信越ブロック

講義と演習の構成が効果的に連動し、特にメンタルヘルスに関する講義・演習は日常業務の振り返りの機会として有意義な研修となった。また、「混合グループから専門グループ、再び混合グループへ」という流れは、受講者の視野が広がったとの評価が得られた。一方で、準備期間が短く、事前資料の共有などが十分できなかったことや、専門別グループワークにおける目的設定の不明確さが課題として挙げられた。グループ替えの際のアイスブレイク等の配慮不足や運営体制・役割分担の曖昧さ、人数が多い中でのグループワークの難しさなども課題として出された。

④九州・沖縄ブロック

講義・演習ともに流れも内容も良く、特にキャリア理解やメンタルヘルスに関する内容は実務への活用を意識した学びとして好評だった。事例検討についても講師間の連携による柔軟な運営もあり、段階的に対象者の人物像や気持ちに寄り添う視点への理解が深まった様子があった。一方で、事例の検討が事柄に偏りがちで、専門事業の視点からの地域づくりや多機関連携等への議論が十分に深まらなかった点、講師体制の強化、ワークの進め方に関する事前説明の不足などの課題が挙げられた。

⑤北海道・東北ブロック

事例検討が円滑に進行し、実践的な学びの機会として有意義な研修となった。また、生活困窮者支援における理念やソーシャルワークの本質に立ち返る必要性が共有され、対面研修の持つ交流や場づくりの価値が再認識できる内容となっていた。相談者の現在にフォーカスした個別支援から始める事例検討は検討しやすい進捗となった。一方で、グループワークの中で偏った発言や個人の尊厳にかかわる発言も見られ、議論の質、講師のかかわり方についての課題も出された。

⑥中国・四国ブロック

研修全体として受講者の主体的な参加姿勢があり、講師全員がファシリテーターとして関与したことで会場全体に一体感と臨場感が生まれた。進行の工夫もあって受講者の理解が促進され、効果的な研修運営となった。一方で、個人ワークとグループワークの区別が分かりにくかった点や時間不足による議論の消化不良という指摘もあった。個人の尊厳の確保にかかわる提案に講師がどのように介入するのか、受講者が職場に還元する仕組み等も課題として挙げられた。

2) 運営企画委員会での振り返り

各ブロック報告書以外で、課題・改善点、次年度に向けて出された主な意見は、以下のとおり。

①研修プログラムの流れについて

- ・困窮者支援の在り方をもう一度学び直す講義①は必要で、講義②の地域づくりを身近なことから考えていくという流れも良かった。
- ・地域づくりについての意見交換は、地域や経験による差が大きかった。いきなり地域づくりという議論は難しく、中間的な場づくりなどを議論していかないと、個別の支援と地域づくりという方向性が乖離するので、それを埋めていく議論が必要。

②講師の選定について

- ・2日間の研修を連動した内容にするため、講師がチームとなって全員で2日間の研修にかかわれるよう、できるだけ早めに相談するなどして講師を選定していく。
- ・今年度の経験を次年度に活かすためにも、継続していただく講師もいたほうが良い。
- ・講師の発掘という意味でも、経験豊富な講師ばかりでなく、受講者より少し経験や力量のある方を選定して、講師として経験を積んでいくようにした方が良い。

③講師（ファシリテーター）の役割について

- ・事業別の事例検討の際、人数が多い自立相談支援と人数が少ない居住支援や子ども支援のファシリテーターのかかわり方が違っていたので、工夫が必要。
- ・偏った発言などへのフィードバックやコメントの仕方、グループワークが上手くいかない場合の介入の仕方なども講師と事前に相談しておいたほうが良い。
- ・アイデアとして出された意見を否定しない前提で、個人の尊厳の確保などにかかわる発言については、生活困窮者自立支援制度の理念に照らして、どのように講師が対応するのかを考えておく必要がある。
- ・事前打合せ不足もあり、指示の出し方や時間配分にばらつきがあった。受講者に説明する共通のスライド、振り返りのポイントのマニュアルなどが準備できたら良い。
- ・事例検討を始める前の説明だけでなく、ワークの始まり毎に何をするのかの説明があったほうが良かった。

④事例検討の目的について

- ・受講者が表面的な言葉に引きずられ、問題解決に簡単に走る傾向があった。
- ・事例検討が課題解決型に終始してしまうのが課題。課題解決に走らないで、立ち止まって相談者の気持ちを考える時間を持つことを講師が受講者に伝える必要があった。
- ・支援者が課題に気付いて、その解決方法を示すことができても、本人がその気になるのが勝負。「これしか方法がないのに何故そうしないのか」「どうしたらその

人がもう一度立ち上がることに向かうのか」を考えることが大事。

- ・ 1日目の研修で理念に改めて触れても、2日目の事例検討では課題解決に特化してしまっていた。課題解決の前に、「どうして相談者の気持ちを考えないといけないのか」という問題意識が何を意味しているのか」について、人の心・気持ちに立ち返って議論を深めるべきだった。
- ・ 支援には二層あって、課題を見つけて解決する面と、気持ちに寄り添うという面があると思う。
- ・ ソーシャルワークの基本にある問題解決の主体は本人ということを確認した方が良くかもしれない。
- ・ 課題解決を考える時間と共感して一緒にいる時間など、事例検討の時間を分けるというやり方もある。
- ・ 問題解決型の支援と伴走型支援は両輪で、解決できる課題は解決に向かっていくが、その人の気持ちに寄り添っていくことは、なくてはならない支援だと思う。
- ・ 伴走型と課題解決型は役割ではなく、ひとりの支援員がどちらも持つ。その横串が個人の尊厳だと思う。解決型と伴走型からその人を見ていくということだと思う。伴走型は単に時間軸が長いのではなく、モノの見方や考え方の両輪だと思う。

⑤事例の選定、情報量について

- ・ 共通の事例にすることで、事例検討の進め方や事業別の獲得目標の相談など、全ブロックの講師の横の連携もできて良い。
- ・ 今回の事例には、相談者の状況が想定できる幅があり、様々な角度から支援の可能性を検討できる絶妙な情報量が盛り込まれていた。

⑥事例検討の事前準備、進め方、留意点について

- ・ 運営企画委員会での情報共有や事例などの議論を充実させていくことで、各ブロックの研修企画部会で共有できる。
- ・ 専門事業の講師と各事業の獲得目標までの相談ができないなど、事前準備が不十分で、事例内容を講師が咀嚼できないままの実施となり講師の力量任せになってしまっていた面があった。
- ・ 専門性の追求については、時間が限られている中で難しいと思う。
- ・ 生活困窮者自立支援における専門性はスキルや専門知識なのか、基本姿勢を徹底的に学ぶことなのかがある。
- ・ ブロックによっては、「お母さんと子どもたちが互いを思いやることのできる仲の良い家族なのではないか」など、家族の良い所を挙げていった様子があった。

⑦ブロックの区分け・開催地について

- ・ 開催地は参加のしやすさを考慮して決める必要がある。
- ・ 開催地の場所によってブロック内の各県の参加人数が違って来る状況が見られた。ブロック内で交通の便が良い所なのか、持ち回りが良いのか、ブロック単位の交流や連携の目的もある中で、どのように考えるかの検討が必要。
- ・ 参加が難しい方にも広げるという意味で、オンラインやオンデマンドでの参加の可能性も検討が必要。

⑧受講対象者について

- ・ 定員の枠内で初任者の受講も受け入れたため、専門性を高める構成にはなっていない

かった。

- ・関東・甲信越ブロックは申込人数が多くて調整したため、受講者が経験年数2年以上になった。
- ・グループワークの意見交換には、受講者の都道府県研修などでのグループワークの経験の差の影響があると思われた。

⑨アンケート項目について

- ・今年度のアンケートでは、以下2点についてプログラム毎に回答してもらうようにした。
 - ①実践に向けて参考になったかどうかの5段階評価
 - ②現場での実践において、活用できるといった内容を具体的に記述
- ・アンケートで満足度だけでなく、理解度を測る設問が必要。

(2) 受講者アンケート、各ブロック研修企画部会、運営企画委員会を踏まえた成果と次年度に向けて

1) 成果について

- ①事例検討を通じて「生活困窮者支援の本質」について考えることができた。

事例をめぐる演習を通じて、「分野別の支援に流されず、世帯全体をどう捉えるか」「各事業の専門性と事業を越えた連携の必要性」「伴走型支援の必要性」といった生活困窮者支援の根幹に関わる視点が共有された。限られた情報から支援の可能性を広げる思考法が浸透したといった意見もあった。
- ②地域づくりの視点が参加者間で共有できた。

1日目の講義と2日目の事例検討が連動し、「地域で支えるとは何か」を自分事として考える契機となった。具体的にアンケートでは、「現状の関わり方を見直すきっかけになった」、「生活困窮者支援にとって地域づくりの重要性を再認識した」といった声が多く、地域づくりへの理解が確実に前進した。
- ③研修を通じたネットワーク形成の基盤ができた。

主任相談員が孤立しがちな現状に対し、本研修が横のつながりをつくる場として機能した。また地元でもこうした研修をしてみたいという意見もあった。今後、都道府県研修の講師候補となる人材の発掘にもつながり、地域全体の支援力向上に寄与する循環の芽が生まれた。
- ③549名の支援員がステップアップ研修を受講することができた。

研修案内から受講申し込みの期間が短く、2日間の対面研修にも関わらず、6ブロックで計549名の受講者がステップアップ研修を受講した。支援員が多い関東・甲信越ブロックでは定員の1.5倍の申し込みがあり、2年目以上の支援員の限定受講となる程であった。他ブロックも平均90名の受講があったことは、現任者から求められていた研修の証左であった。
- ④受講者の評価も高く、好評だった。

受講者アンケートによると、すべてのプログラムで5段階評価の4以上(4.10～4.67)と満足度の高い研修となった。事例検討の進め方が分かりにくかったという意見は散見されたが、研修内容については全ブロックで高評価だった。
- ⑤短い準備期間にもかかわらず、目的に即した研修が実施できた。

研修企画委員会の設置から当日までの準備期間が短く事前打合せが不十分な面や、1日にわたる事例検討、グループワーク中心の参加型研修は手探りの状況もあった。そのような中で、実施したブロックの経験を次の実施のブロックに活かして

いく連携、各ブロック講師間の連携、受講者の協力もあり、回を重ねるごと研修運営が改善されていった。

2) 次年度へ向けて

①開催地、日程、会場の予約について

受講者の移動を考慮して寒冷地の日程を早めに設定し、受講者の交通の利便性も兼ね備えた場所などを関係者で協議して早めに決定する必要がある。

②委員・講師の強化について

運営企画委員、研修企画部会委員、講師は2日間登壇可能で、ブロック内の次世代講師の育成も目的として、適切な人材を選定し、ブロック内、全ブロックでの講師の連携を密にして、チームでの研修実施が可能となるようにする。

また、講師と受講者が共により良い研修にしていけるように、講師（ファシリテーター）のかかわり方、受講者の理念の理解を深める働きかけ方等を検討する。

③研修プログラムについて

プログラムは基本今年度を踏襲し、2日目の事例検討ではその目的を関係者で議論し、受講者にも理解してもらえるように研修を組み立てていく。

④事例について

今年度のアンケートで提供可能と回答した24名の事例提供の意向をどのように活かすのかを早めに関係者で検討して、準備をすすめる。

⑤運営について

事務局として募集要項の作成から、アンケート回収に至る事務的な事項の精度を上げ、万全の準備と円滑な当日運営に努める。

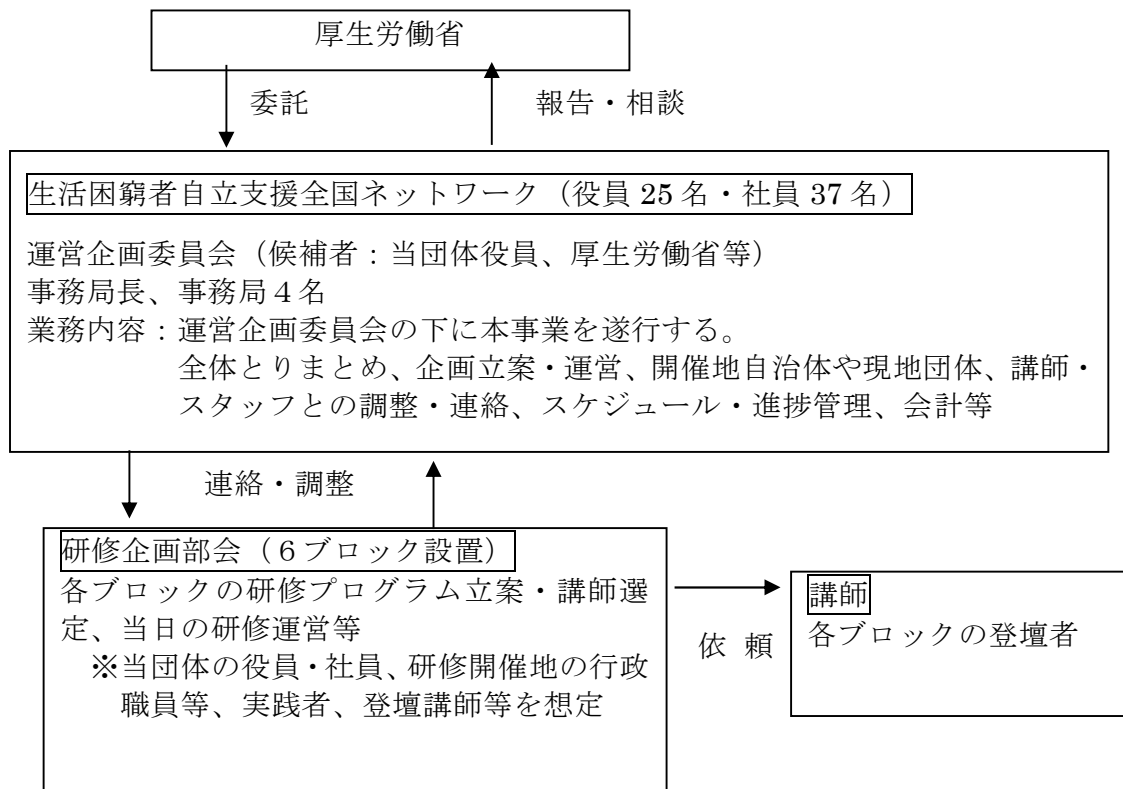
6. スケジュール

8月28日(木)	「生活困窮者自立支援制度人材養成における現任者向け研修・広報啓発一式について」契約締結
9月2日(火)	ステップアップ研修厚生労働省との打合せ
9月10日(水)	厚生労働省よりステップアップ研修日時・会場の事務連絡発出
9月19日(金)	都道府県へステップアップ研修募集要項送付
9月22日(月)	困窮者支援情報共有サイトID登録906自治体へ募集要項送付
9月28日(日)	現任者向け：ステップアップ研修 運営企画委員会
9月29日(月)	ステップアップ研修中国・四国ブロック会場下見・岡山県庁挨拶
10月3日(金)	ステップアップ研修東海・北陸ブロック会場下見・愛知県庁挨拶
10月9日(木)	ステップアップ研修九州・沖縄ブロック福岡県庁訪問
10月12日(日)	ステップアップ研修近畿ブロック研修企画部会(第1回)
10月14日(火)	ステップアップ研修東海・北陸ブロック研修企画部会(第1回)
10月16日(木)	ステップアップ研修近畿ブロック会場下見・大阪府挨拶、
10月23日(木)	ステップアップ研修中国・四国ブロック研修企画部会(第1回)
10月27日(月)	ステップアップ研修近畿ブロック研修企画部会(第2回)
11月1日(土)	ステップアップ研修事例のすすめ方打合せ
11月4日(火)	ステップアップ研修九州・沖縄ブロック研修企画部会
11月5日(水)	ステップアップ研修関東・甲信越ブロック研修企画部会
11月12日(水)	ステップアップ研修北海道・東北ブロック研修企画部会、ステップアップ研修東海・北陸ブロック講師オリエンテーション

- 1 1月26日(水) ステップアップ研修関東・甲信越ブロック講師オリエンテーション
- 1 2月 2日(火) ステップアップ研修東海・北陸ブロック講師オリエンテーション
- 1 2月 4日(木) ステップアップ研修東海・北陸ブロック(1日目)
- 1 2月 5日(金) ステップアップ研修東海・北陸ブロック(2日目)
- 1 2月11日(木) ステップアップ研修近畿ブロック(1日目)、1月実施3ブロック
(九州・沖縄、北海道・東北、中国・四国)へ募集期間延長の案内
- 1 2月12日(金) ステップアップ研修近畿ブロック(2日目)
- 1 2月16日(火) ステップアップ研修北海道・東北ブロック講師オリエンテーション、
九州・沖縄ブロック講師オリエンテーション
- 1 2月18日(木) ステップアップ研修関東・甲信越ブロック(1日目)
- 1 2月19日(金) ステップアップ研修関東・甲信越ブロック(2日目)
- 1 月 5日(月) ステップアップ研修中国・四国ブロック講師オリエンテーション
- 1 月13日(火) ステップアップ研修九州・沖縄ブロック講師オリエンテーション
- 1 月15日(木) ステップアップ研修九州・沖縄ブロック(1日目)
- 1 月16日(金) ステップアップ研修九州・沖縄ブロック(2日目)
- 1 月19日(月) ステップアップ研修北海道・東北ブロック講師オリエンテーション
- 1 月22日(木) ステップアップ研修北海道・東北ブロック(1日目)
- 1 月23日(金) ステップアップ研修北海道・東北ブロック(2日目)
- 1 月29日(木) ステップアップ研修中国・四国ブロック(1日目)
- 1 月30日(金) ステップアップ研修中国・四国ブロック(2日目)
- 2 月 9日(月) ステップアップ研修関東・甲信越ブロック研修企画部会、ステップア
ップ研修近畿ブロック研修企画部会
- 2 月19日(木) ステップアップ研修東海・北陸ブロック研修企画部会
ステップアップ研修北海道・東北ブロック研修企画部会
- 2 月20日(金) ステップアップ研修中国・四国ブロック研修企画部会
ステップアップ研修九州・沖縄ブロック研修企画部会
- 3 月 5日(木) 厚生労働省打合せ 令和7年度委託事業の振り返り
- 3 月19日(木) ステップアップ研修企画運営委員会

7. 事業運営・実施体制・当日の様子

運営企画委員会（委員候補は当団体役員）下に、6ブロックに研修企画部会を設け、事務局5名で事業を実施する。



8. 資料

(1) 募集要項

生活困窮者自立支援制度人材養成研修（厚生労働省委託事業）

令和7年度 生活困窮者自立支援制度人材養成における 現任者向け研修（ステップアップ研修）

募集要項

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（令和7年6月2日付社援発0602第6号厚生労働省社会・援護局長通知）にてお示しした現任者向けのステップアップ研修を一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク（以下、「全国ネット」）で事業を受託し、開催することとなりました。

今般、「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業（現任者向け：ステップアップ研修）開催日程につきまして（周知）」（令和7年9月1日付厚生労働省社会・援護局地域福祉課生活困窮者自立支援室長事務連絡）で示されていた「詳細の募集要項」についてご案内します。

本研修は、「生活困窮者自立支援制度人材養成における現任者向け研修（ステップアップ研修）」として、全国6ブロック（①北海道・東北、②関東・甲信越、③東海・北陸、④近畿、⑤中国・四国、⑥九州・沖縄）で2日間にわたり開催します。受講対象は、国研修・都道府県研修を修了した方、または実務経験が2年目以上の現任者としています。

各都道府県においては、本要項を管内自治体へご周知の上、当該の方へ受講を促して頂きますようお願いいたします。

各市（区）町村においては、制度に関係する支援員が幅広く受講できる研修ですので、委託先事業者含め積極的な受講の呼びかけをお願いいたします。

なお、本研修の申込は受講希望者が全国ネットへ直接行う形式となっている関係で、全国ネットより関係各所へ幅広く周知・広報を行っていることを申し添えます。

1. ステップアップ研修の概要

(1) 目的

生活困窮者自立支援制度の理念を具現化するための実践力の養成・向上を目的とする。

(2) 各ブロックの開催日程・会場

ブロック	開催日程・会場
北海道・東北	令和8年 1月22日(木)～23日(金) 仙台市／仙台国際センター (宮城県仙台市青葉区青葉山無番地)
関東・甲信越	令和7年12月18日(木)～19日(金) 東京都・港区／ビジョンセンターグランド東京浜松町 (東京都港区芝大門1-13-9 UD 芝大門ビル)
東海・北陸	令和7年12月4日(木)～5日(金) 名古屋市／リファレンス名古屋栄貸会議室ナディアパーク (愛知県名古屋市中区栄3-18-1 ナディアパーク 9F)
近畿	令和7年12月11日(木)～12日(金) 大阪市／グランキューブ大阪 (大阪府大阪市北区中之島5-3-51)
中国・四国	令和8年 1月29日(木)～30日(金) 岡山市／ターミナルスクエア (岡山県岡山市北区駅元町1番4号 スクエアビル)
九州・沖縄	令和8年 1月15日(木)～16日(金) 福岡市／九州ビル (福岡県福岡市博多区博多駅南1-8-31)

(3) 各ブロックの区分

ブロック	都道府県区分
北海道・東北	北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東・甲信越	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県
東海・北陸	富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国・四国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州・沖縄	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

※都道府県区分に該当するブロックでの受講を基本とします。しかし、該当ブロックの開催日程では参加が難しいといった所属先の事情により、別ブロックでの受講を希望することは可能です。

※定員超過が見込まれるブロックでは参加者の人数調整を行います。

2. 受講対象者

(1) 次のいずれかを満たす現任者を受講対象者とします。

①初任者向け研修（国研修及び都道府県研修）を修了した方

②生活困窮者自立支援制度の相談支援を行う支援員として2年目以上の経験がある方

(2) (1)を優先しつつ、定員の範囲で初任者等の受講も受入可能です。受講希望がありましたら、全国ネット事務局へご相談ください。

3. 基本プログラム（仮）

○1日目／10時～17時（6時間）

制度の理念や自身の実践を再確認し、言語化する

プログラム
(1) 生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する ・理念や対象者像の確認と振り返り・生活困窮者支援を通じた地域づくりの考え方
(2) よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～ ・キャリアサーフシートの作成（実践の振り返り）・支援員を支える仕組み ・チームアプローチ・支援員のメンタルヘルスやその支援

○2日目／10時～16時（5時間）

対話と交流を重ね、チームアプローチを試みる

プログラム
(3) 事例検討① ～状況把握・チームによる本人理解～ ・出会いから当事者理解（アセスメント）～支援の立ち上げを重点的に検討（事業混合グループでの検討）
(4) 事業別専門講座 ・自立相談支援、就労（準備）支援、家計改善支援、居住支援、子どもの学習・生活支援事業に分かれ、専門性を深める講義や演習
(5) 事例検討② ～地域づくりの芽をチームで発見する～ ・前半の検討をさらに深め、事例の未来（方針やプランを立てていくプロセス・その先にある当事者の生き方暮らし方）について検討をさらに進める。

※プログラムの内容は「運営企画委員会」、「研修企画部会」で検討しています。
プログラム内容が確定した段階で改めてご案内いたします。

4. 受講方法

本研修の性質上、対面で研修を実施します。

5. 受講料

無料

※旅費等は負担ください。なお、本研修への参加旅費については、受講する支援員が従事する事業の国庫補助対象経費としています。

6. 参加申込み

(1) 参加申込締切

ブロック	参加申込締切
北海道・東北	令和7年12月24日(水)
関東・甲信越	令和7年11月19日(水)
東海・北陸	令和7年11月5日(水)
近畿	令和7年11月12日(水)
中国・四国	令和8年1月7日(水)
九州・沖縄	令和7年12月17日(水)

(2) 参加申込方法

受講希望者は各自で受講するブロックの URL・二次元バーコードよりお申込みください。

ブロック	URL	二次元バーコード
北海道・東北	https://forms.gle/SvqujSwmEpZfQBLx9	
関東・甲信越	https://forms.gle/wk9jR163VKDC7QKe8	
東海・北陸	https://forms.gle/TT1d2ixeNAvRy8oC7	
近畿	https://forms.gle/tzJzXtcLzddSVzAg6	
中国・四国	https://forms.gle/a8JNuPD8QsWEYGfu6	
九州・沖縄	https://forms.gle/pKch8bJeTmHyrht69	

受講決定については、各参加申込締切後にメールにてご案内いたします。

7. 定員

各ブロック100名程度（各ブロックの会場の収容人数で若干変わります）。

※各ブロックの研修会場の収容人数を超える場合、参加者の調整をさせていただきます。

※都道府県ごとの受講定員は設けておりませんので所属先の判断でお申し込みいただけます。

8. 研修資料

研修の資料は当日会場で配布します。

9. 「現任者向け研修参加証明書」の配布

2日間の全プログラムを受講した方には「現任者向け研修参加証明書」を研修終了後に会場で配布します。

※参加証明書は参加申込み際に入力いただいた情報で発行します。そのため、受講者名など間違えないようお申込みください。

10. 個人情報の取り扱いについて

受講者に関する個人情報は、本研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その他、その管理については、事業受託者である全国ネットの個人情報保護方針（※）に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

※プライバシーポリシー：<https://minna-tunagaru.jp/policy/> に掲載。

<現任者向け研修に関する連絡・お問い合わせ先（事業受託者）>

一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク

〒169-0072東京都新宿区大久保2-4-15サンライズ新宿3F

事務局長 行岡 みち子

担 当 鷲野 奈美、平本 早余子

高橋 陽佑、倉岡 良子

TEL：03-3232-6131 （直通）092-481-6873

FAX：092-481-7886

Mail：info@minna-tunagaru.jp

(2) 申込期間延長案内チラシ (九州・沖縄ブロックの例)

令和7年度厚生労働省委託事業 生活困窮者自立支援制度人材養成研修 現任者向け (ステップアップ) 研修 (九州・沖縄ブロック) のご案内

申込期限
12月19日
(金)
参加無料

初任者研修は受けたけど、その後研修を受ける機会
がなかった…もっと力をつけたい!



中堅になったけど、職場づくりって? 支援員を
育成するって? どうしたらいいんだろう?

事業所の中や地域の関係者との繋がりはあるけど、
県内や県外のたくさんの人と繋がりたい! 学びあ
いたい!

令和8年1月15日(木) ~ 16日(金)

会場 福岡市・九州ビル 9階

★令和7年度より新たにステップアップ研修が始まります!★

令和6年度から国研修・都道府県研修は、対象者を各事業の経験が浅い者(初任者等)とし、制度の基本的な理念、概要、そして支援の基本となる土台を「知る・理解する」ことを目指し、実施しています。

そして、令和7年度から新たに実施するステップアップ研修では、国研修・都道府県研修を修了した方・実務経験が2年目以上の方を対象に、さらに支援を具体的に展開するために必要な要素となる「地域づくり」や「チームアプローチ」等を、事例検討を通して学び、「具体的に実践する」ことを目指していきます。

さらに、キャリアサーフ・シートを活用して、これまでの実践を振り返りながら、これからの実践で力をいれたいこと・ご自身のキャリアについて考える時間も設けています。研修は対面で行いますので、新たに出会う仲間との交流も研修を通して楽しんでください! 横のつながりは支援員の皆さまを支える大きな力となるはずです。

今年度から始まる新たな研修に是非ご参加ください。会場でお会いできることを楽しみにしています!

本研修は厚生労働省から(一社)生活困窮者自立支援全国ネットワークが委託を受けて運営します。

ステップアップ研修 プログラムのご紹介

1日目 9:55～17:20

午前：生活困窮者自立支援制度の理念を再確認する

講義	・制度の対象者の確認 ・2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理についての講義
演習	具体的な実践を振り返るグループワーク等
講義	「生活困窮者支援を通じた地域づくり」の考え方
演習	我が街での地域づくりを振り返り、地域づくりの芽を探すグループワーク等

午後：よりよい支援に向けて～わかる・つながる・支え合う～

講義	支援員としての成長、専門性の形成を考える
演習	キャリアサーフシートを作成・振り返りのワーク
講義	支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス～
演習	ワールドカフェなど：共有や交流・意見交換

2日目 10:00～16:00

事例検討を通し、支援の具体的展開やチームアプローチ等を学ぶ

演習	事例検討①（事例混合のグループワーク・個人ワーク等） 対象者理解・アセスメント、本人を取り巻く環境に着目した捉え方を学ぶ
	事例検討②（専門事業別のグループワーク等） 自立相談支援、就労準備支援、家計改善支援、居住支援、子どもの学習・生活支援に分かれた事例検討を通して、各事業で大切な支援のポイントを学ぶ
	事例検討③（事業混合のグループワーク・個人ワーク等） 事例検討①と②を受けて、さらに事例検討を深め、プラン作成までを学ぶ。

お申し込み方法：お申し込みフォームより 12月19日（金）までにお申し込みください。

https://docs.google.com/forms/d/1ILOgrlz2n_y3EstXHX-WQLw_gmeoxL0xFnlV8ao/edit

お問い合わせ先：（一社）生活困窮者自立支援全国ネットワーク

メール：info@minna-tunagaru.jp TEL:03-3232-6131

○開催会場のご案内 九州ビル 9階（博多駅筑紫口 徒歩6分）

https://k5h.jp/common/pdf/map_hakata_kyushu_bldg.pdf



(3) 当日配布資料

① 2日目の事例

事例検討①～③の事例

相談者：小山麻子(こやまあさこ)さん 41歳 女性

【事例検討の進め方（基本）】

10:05～11:35 事例検討①

- ① 事例紹介・事例の読み上げ
- ② ワークシートの記入
- ③ 事業混合チームでのグループワーク
- ④ 全体でのグループワークの発表・共有
- ⑤ 講師によるアセスメントのポイント等についてのコメント

12:35～14:15 事例検討②

- ① 専門事業別のグループに分かれてのグループワーク
- ② 専門事業別にグループワークの発表・共有
- ③ 専門事業別の講師によるコメント
- ④ 個人別のワーク

14:30～15:45 事例検討③

- ① 事業別検討内容の講師による全体共有
- ② 事例検討①の事業混合チームに戻ってのグループワーク
- ③ 個人別のワーク

【事例検討の観点】

- ・前半 小山家のアセスメントを行い、どのような状態になっているのか、課題はなにか、課題が生まれる背景には何があったのかを探ります。

※支援初期のアセスメントでは、見立てを含め、仮定や可能性の情報が盛り込まれていても構いません。

↓

- ・事業別グループに分かれての検討

↓

- ・後半 小山家の支援として考えられる選択肢をグループで検討します。前半のアセスメント、事業別講座で深めた支援の視点を用い、どのような支援が考えられるのかを検討します。

(検討のポイント)

- ① 本来であれば、本人の気持ちや状態を本人と共有しながら支援策を検討していくものですが、今回は研修ですので、あらゆる可能性を考慮して、支援の選択肢を検討します。とはいえ、事例シートから読み取れるご本人の性格や心情に可能な限り配慮した「現実的な（本人が取り組めそうな）プラン」を検討してください。
- ② 「生活困窮者支援を通じた地域づくり」を本事例の実践でどう展開するかを合わせて検討してください。

【事例検討①～③の事例】

相談者

小山麻子（こやまあさこ）さん、41歳、女性

相談のキッカケ

3カ月後に引っ越さなければいけないが、引っ越し先が見つからず困っていることを大家さん（民生委員）に伝えたところ、自立相談機関で住まいのことや、他にも家族のこと、生活で困っていることを相談できると教えてもらい相談に来られた。

小山麻子さんのはなし

<家族>

- ・ 中学2年の長男（14歳・小山^{そうすけ}颯介）、小3の長女（8歳・小山^{ゆうみ}柚美）、猫3匹
- ・ 夫とは3年前から別居し、一昨年協議離婚が成立した。（公正証書は作らず）
- ・ 息子は小学生の時からサッカーが得意で、サッカーチームのキャプテンも務めた。中学校でもサッカー部に入って頑張っていたが、1年の終わりごろから部活を休み

がちになって2年になってから退部した。それからは学校に行くのも行き渋り、私
がケガをして休職し家にいるのをいいことに、息子も学校に行っていない。「なぜ
学校に行かないのか」「なにか嫌なことがあったのか」と聞くも「とくに、、、」と言
うだけで理由を話してくれない。担任の先生に聞いても「自分たちにも心当たりが
ない」と言う。親としては学校に行ってほしいが、理由がわからない間は無理に行
けとも言えず、時間だけが経過していき最近では焦っている。

- ・娘は勉強があまり好きではなく、宿題もよく忘れていくので困っているが、誰と
でも仲良くなれる性格で友だちも多く、毎日楽しく学校に通っている。放課後も近く
の公園で友だちと夕方遅くまで遊んでいたが、最近仲のいいお友だちたちが塾に行
きはじめてたようで、学校から帰ると家で3匹の猫の親子の世話をしている。過
ぎては娘もお友だちと一緒に塾に行きたいと思っているのではないかと思ってい
るが、いまは金銭的に余裕が無いので、こちらからはその話には触れないようにし
ている。
- ・元夫とは職場で知り合い、26歳の時に結婚した。離婚の原因は、夫のギャンブルと
借金。借金を知った時はショックだったが、子煩悩で子どもにとってはいい父親だ
ったし、二度としないと約束したので、その言葉を信じて私も借金返済のために3
歳の娘を保育園に預けて、無資格で介護施設の介護補助員として働き出した。しか
し、夫のギャンブル癖は直らず、口論が絶えなくなり、このままでは子どもに悪い
影響を与えたいと思ひ、子どもを連れて家を出た。子どもの親権と慰謝料で揉めて時
間がかかったけれど、最終的には、慰謝料は無し、親権は私ということで協議離婚
が成立した。離婚時の約束で養育費は5万円/月と決まっていたのに、お金がない
と言って、約束通り毎月送ってこないし、送ってきても2~3万円程度がずっと続
いている。こちらは約束を守って子どもと会わせているのに腹が立つけど、持って
いない人に言ってもどうせ払ってくれないだろうから催促もしていない。

<仕事>

- ・資格を取って、3年前から家の近くの介護施設で働いている（パート：5日/週・6
h/日、時給1,250円）が、4カ月前、仕事中に階段から足を踏み外した際に左肩を
骨折（上腕骨近位端骨折・全治6カ月の診断）し、現在は休職中。治療を受けて毎
日リハビリに通っているが痛みが取れず、思うように左手が使えない。先生からは
「骨はもうキレイにくっついていてるんだけどな。」と言われたが、とても職場復帰
できる状態ではない。かといって、いつまでも休んでいられないし、でも、復職し
てもまともに働ける自信がない。働きやすい職場だったので辞めたくはないけど、
それも視野に入れたいといけなと考えている。ただ、職歴が今の仕事と、結婚前
に4年働いたメーカーのショールームの受付だけなので、この年齢と身体で何がで

きるか全くわからないし、息子のこともあるので、雇ってもらえる自信がない。

<住居>

- ・3年前に子どもを連れて家を出る時に、できれば夫と顔を合わせたくなかったのが遠くに引っ越したかったけれど、息子が6年生でその学校で卒業させてやりたかったので、学区内でペット可の安い賃貸を探していたところ、息子の同級生のお母さんから「老朽化で後3年ぐらいで取り壊し予定らしいけど、それでもよかったら家賃だけで敷金とかもいらぬし、どうせ取り壊すから猫も飼ってもいいよ。そこの大家さん、民生委員さんやってて、困ってる人に理解があるし、いいんじゃない。」と教えてもらい、一日も早く家を出たかったのと、学区も変わらず猫も連れて行けるということで、何の迷いも無くすぐに引っ越した。古い借家だけれど3DKでガレージもついていて、家賃が45,000円は本当にありがたかった。
- ・3年しか住めないことは始めからわかっていたことだけれど、当初は「3年もあるからゆっくり次のところを探せばいい」と思っていたが、毎日働きながらの子育てだけで精一杯で、あっという間に2年が経った。そのころから少しずつ物件はネットで見たりしているけど、猫3匹飼える物件が見つからず、困っていた矢先に職場でケガをしてしまったからは、物件探しもできていなかった。ダメもとで大家さんに出ていくのを少し延ばしてもらえないかと頼んでみたが、既に工事の契約を済ませているので難しいと言われた。自分が悪いのはわかっているけれど、このままでは親子で路頭に迷うことになると思うと、夜も眠れない日が続いている。

<収入>

- ・給与（手取り）14万円、児童扶養手当57,700円、児童手当2万円
※不定期的に養育費が入ってくる（平均3万円）
※2,050,000円未満（住民税非課税）
ただ、毎月ギリギリでやりくりしていたので、今は労災の休業補償（8割：112,000円）のため生活が苦しく、最近はカードでの買い物が増え、さらに家計が苦しくなった。しかし、生活保護は受けたくない。
- ・貯金：90万円

<支出>

- ・家賃：45,000円、車のローン：15,000円、学資保険：24,000円
※子どもの将来のために節約して3年前から掛けてきた学資保険は絶対に解約したくない（加入12歳まで）
※3年前に中古の軽自動車をローン（60回払い）で購入（手放す気はない）

<ワークシートのイメージ>

① 過去	② 現在	
<p>※本人との面談で聞いた過去からこれまでを（できる範囲で）時系列に記載</p> <p>本人のストレスを朱書き</p>	<p>ジェノグラム</p>	<p>エコマップ</p>
	<p>現在の状態</p> <p>※今の心身や生活、経済状況を記入</p>	<p style="text-align: center;">③ 未来</p> <p>短期 長期</p> <p>※各受講生の地域の状況に引き寄せ、本人を起点として、必要な支援とインフォーマルな資源を幅広く検討し、支援員として何をするか記入</p> <p style="text-align: right;">他の受講生の印象的な発表を朱書き</p>


<架空の事例に基づく記載例>

① 過去	② 現在	
<p>●●年 誕生（5人兄妹の長女）</p> <p>●●年 洗礼を受ける <i>精神的な拠り所がある</i></p> <p>●●年 妹や弟の面倒を見ながら幼少期を過ごす <i>妹や弟と歌ったり踊ったり面倒見がよい</i></p> <p>●●年 一家の家計を支えるためダンサーとして働き始める</p> <p>●●年 来日 <i>踊りが得意</i></p> <p style="margin-left: 20px;">・得意なことで収入を得たい</p> <p style="margin-left: 20px;">→前向きな意思</p> <p>●●年 知人より電話相談 本人来所</p>	<p>ジェノグラム</p>	<p>エコマップ</p>
	<p>現在の状態</p> <p>※今の心身や生活、経済状況を記入</p>	<p style="text-align: center;">③ 未来</p> <p>短期 長期</p> <p>・収入、支出、貯蓄、債務の状況確認 →状況によっては法テラスに相談</p> <p>・長男との関係構築 →進学や将来についての対話</p> <p>・長女との関係構築</p> <p>・長男を子どもの学習・生活支援事業につなぐ</p> <p>・長男の支援をきっかけに長女の居場所等も情報収集</p> <p>・長男の受験・進学費用準備</p> <p>・長く働くのが難しかった体調面は？理由を解きほぐす</p> <p style="text-align: right;">担任や副担任にも様子を聞いてみる</p>

② 2 日目事例検討のワークシート

現任者向け：ステップアップ研修

<事例検討ワークシート>

<p>①過去</p> <p>※本人との面談で聞いた過去からこれまでを (できる範囲で) 時系列に記載</p>	<p>②現在</p>	
<p>ジエノグラム</p> <p>現在の状態</p> <p>※今の心身や生活、経済状況を記入</p>	<p>エコマップ</p> <p>※本人の語り・言葉を記入 ※本人の視点からのニーズ・希望を記入</p>	
<p>③未来</p>		
<p>短期  長期</p> <p>※地域の状況に引き寄せ、本人を起点として、必要な支援とインフォーマルな資源を幅広く検討し、支援員として何をするか記入</p>		

(4) 当日の研修の様子

<北海道・東北ブロック>



<関東・甲信越ブロック>



<東海・北陸ブロック>



<近畿ブロック>



<中国・四国ブロック>



<九州・沖縄ブロック>

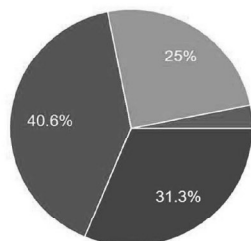


(5) アンケート結果（ブロック別）※実施日順

R7 東海・北陸ブロック現任者研修アンケート集計結果

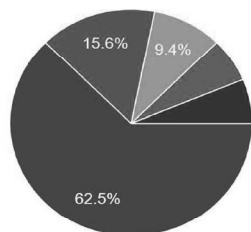
所属先分類
32件の回答

受講者58名 回答率55%



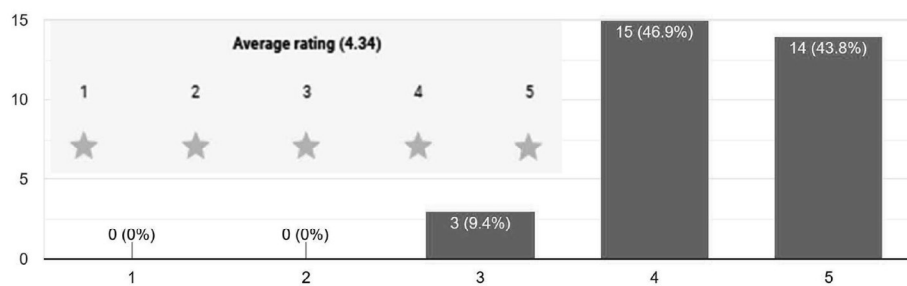
- 行政
- 社協
- 民間
- 社会福祉法人

事例検討での事業名
32件の回答

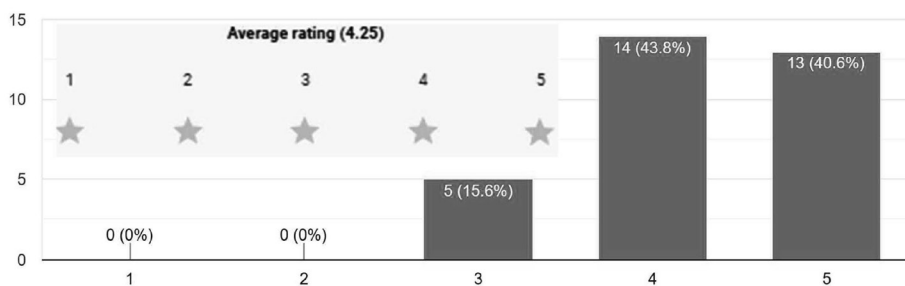


- 自立
- 就労
- 家計
- 居住
- 子ども

【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
32件の回答

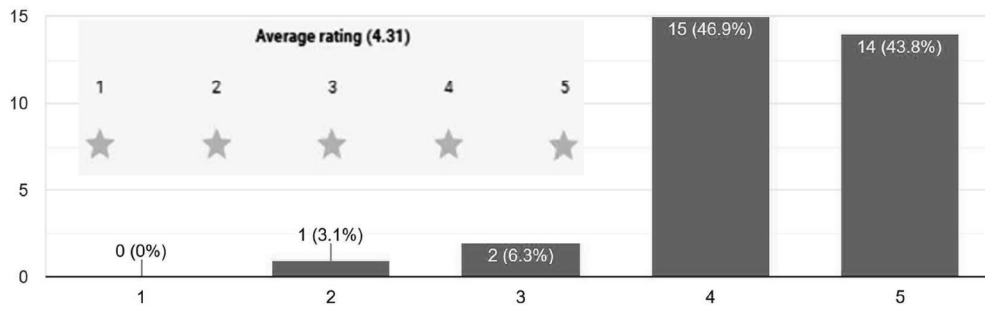


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
32件の回答



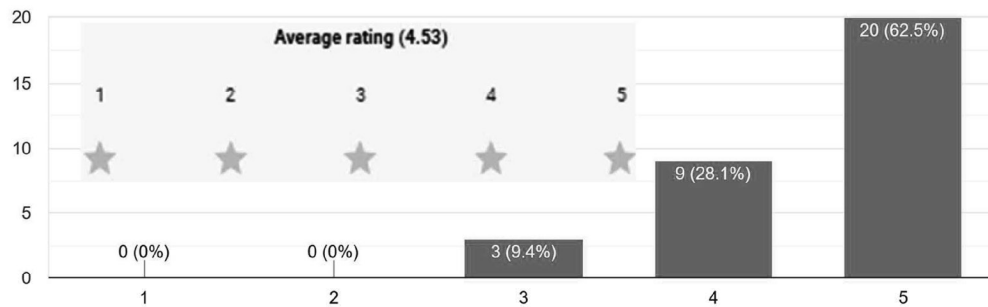
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

32件の回答



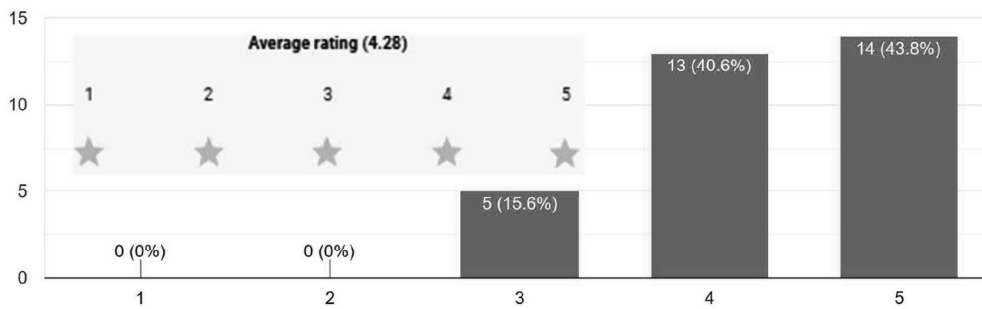
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

32件の回答



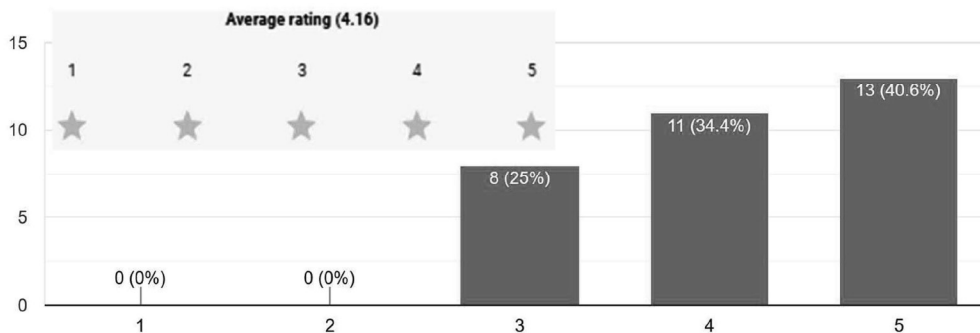
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

32件の回答



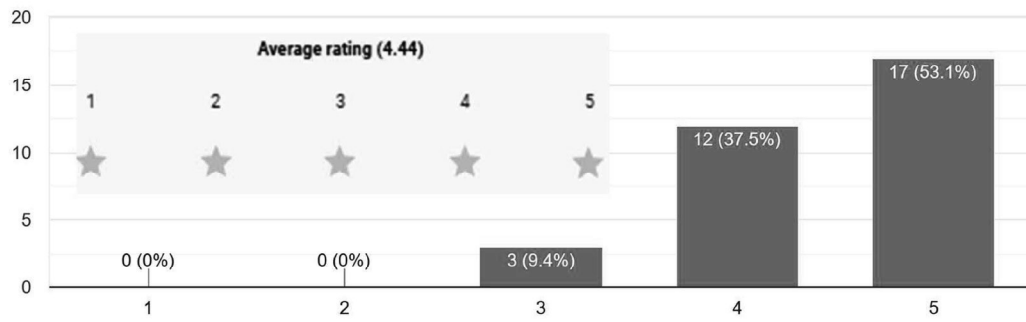
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

32件の回答



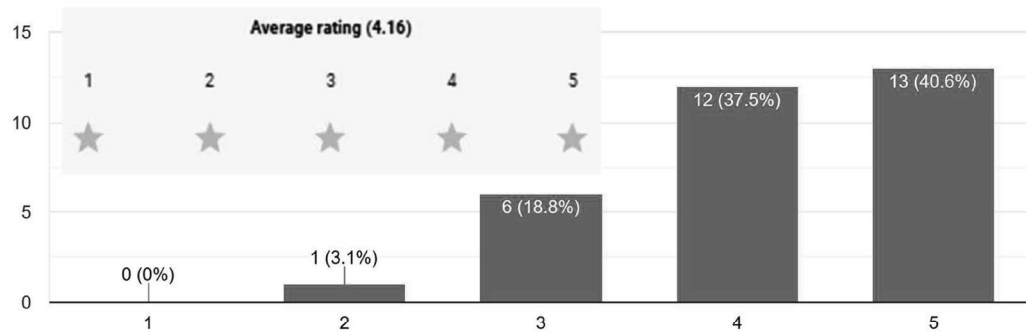
【全体】 (1) 全体を通した内容について

32件の回答



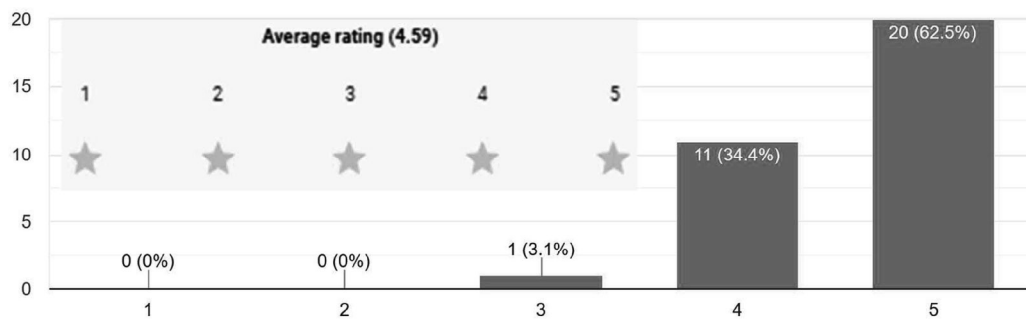
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

32件の回答



【全体】 (3) 全体の運営について

32件の回答

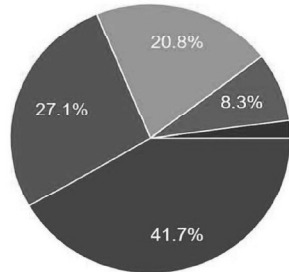


東海・北陸ブロック
1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
自分たちが行っている支援は命を守る支援であり、とても重要な部分を担っていることを再認識できた。よく言われる「断らない支援」の意味、大切さを考えさせられた。また、自身が制度に対する理解を深めることで、他者に説明するスキルがあがったように思う。
断らない支援により、経済的な面だけではなく、孤立を防ぎ、命を守る支援であることを忘れず、常に心に留め支援に当たりたいと思った。
3つの基本倫理を置き去りにして自立の為に自分の価値感を押しつけてしまっていた。1人体制で忙しいことを言い訳にしていた。壁に貼りひとり朝礼で毎朝唱えている。
支援の中でも何を中心に置くのか、軸とするのかを改めて考える機会になり参考になりました。
1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
地域づくりという言葉に今までピン来ていなかったが、喫茶店やショッピングモールの店員が世帯の困難に気付く事があるとの話が印象的だった。地域的に喫茶店が多いので何か創ることができないかと感じた。
「あれば使う、なければ創る」好奇心を持って社会や地域のこと、人に目を向けてみる。停滞するのではなく小学校でのコミュニティスクール、フードドライブなど地域課題へのアプローチから輪を繋げることが出来れば、身近なところから広げることが出来るのではないかと思います。
他機関につないで完結しているケースが多々あり、つなぎっぱなしで終わることなく、つなぎ戻しすることで、支援の進展、連携になるといった点はさっそく実践できたらと思う。
自分の暮らす町にどんな課題があるのか？「支援する側・される側」を越える、ウィンウィンになれる取組はないのか！という事を意識し、自分の町でアンテナを張ることも大切な視点なんだなと思った。
1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」
キャリアサーフを活用し、立ち止まる（振り返る）時間を大切に、支援対象者がやる気になった（波がきた）タイミングで支援する（波に乗る）ことを意識していきたいと思いました。また様々な視点から自己理解を深めることで、自分の支援の振り返りを行いたいと思います。
自分に余裕がないと立ち止まる時間の大切さに気付かず相手を追い詰めることになる。行き来することは右往左往でなく余裕と位置付けることにする。何度も行き来することは振り返るために必要なプロセスであると考えてみたいと思った。
より良い支援のためには、自身のメンタルや職場環境も大きく影響することを学び、今後は、より良い環境づくりに努めていきたい
1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」
支援員のセルフケアや職場全体でのケアと育成システムにだけ焦点を当ててきたが、もっと広い視点で環境を見直していきたいと思いました。
支援者が受けるダメージは個人に起因しているものばかりではない。支援者が安心して働ける環境づくりに業務として取り組んでいく必要がある。
相談の共有で共感疲労やバーンアウトを防ぐ。心理的に安全な職場にしたい。
2日目 事例検討の内容
一つのケースに対して、自立支援、就労支援、家計改善支援、居住支援、子ども支援という異なった観点で関わることで、対象者の課題を多面的に捉えることができる。たとえば、チームの人員が限られるとしても、総力を上げてケースに取り組む必要性を強く感じた。
立場が違ふとみる視点、関わる第一歩が変わってくるのが分かりました。常に2人体制で面談が叶う支援機関もあると聞きましたが、現実はそのようには行かず。面談後に別の支援員に報連相含め話をするることによって、相談者さんと別の視点をもち関りを深めることが出来るのではないかと感じたため、今後活用していきたいと思います。
事実の確認ばかりで「もしかして」という妄想をあまり膨らませることができていなかったため、今後はもっと妄想を膨らませたうえで、思い込みや決めつけにならないように気を付けながら支援の幅が広がるように思考を広げていきたいと思えます。どのような事例でも動機づけの方法は複数あり、支援員によってアプローチ方法が異なることを実感することができて、視野を広がりました。事業所内の他の相談員と積極的に意見を交わしあうことを実践していきたい。
事業別でも学べたことで、いろんな視点からの支援について考えるきっかけとなった。また改めて支援する中で地域作りは大切だと思った。
2日目 事例検討の進め方
他事業の支援員を同じ班において、一度専門の事業ごとに集まって、その情報をまた最初の班に戻って話すやり方は新鮮だったし、とても効果的だったと思った。班の人以外の意見をもっと聞きたいとは思ったし、自分の選択した事業の講師以外の講師とも意見交換できればありがたいと思った。
就労・家計・自立等のそれぞれの立場で見る視点が違うところに気づきがありました。第一線で活動されているため、意見等が間髪入れず聞け、事例検討できたことが良かったと感じています。職歴が長い人に関しては、支援が固まってくるようです。
事業別の事例検討を行った後に全体に戻ったことで、個別事業それぞれの視点を持ちよる方法を体験できてよかった。自分の事業所内では複数事業を受託しているが、縦割り傾向が強いため、各事業間の連携の参考としていきたい。
1つのグループだけではなく、事業ごとのグループでも話ができ、より多くの方と意見交換することができてよかった。猫を飼っている、生活保護拒否など、実際によくあり、また支援をしていくなかでネックになるポイントが盛り込まれており、事例検討の中で出た内容は実際の支援にも活かすことができそうで参考になった。
全体通しての感想・意見
意見交換やグループワークの時間が多く、各講師の講義も分かりやすかった。今まで参加してきた研修の中でも印象に残る非常に有意義な研修だった。
あらためて自分自身を振り返るととても良い機会になった。他県の人たちも同じ悩みや課題を抱えていることが共有できて気持ちが少しすっきりした。自分がやりたいけれど出来ないことがはっきりわかり、目標ができた。
何年もたつと聞く機会が少なくなる内容や広い目をもつ事や考えすぎない事、相談者ファーストであった事、を改めて確認する事ができました。実践に生かせるように努めたいです。自立と尊厳を忘れない様にしたいです。

R7 近畿ブロック現任者研修アンケート集計結果

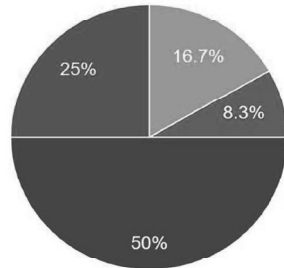
所属先分類
48件の回答

受講者85名 回答率56%



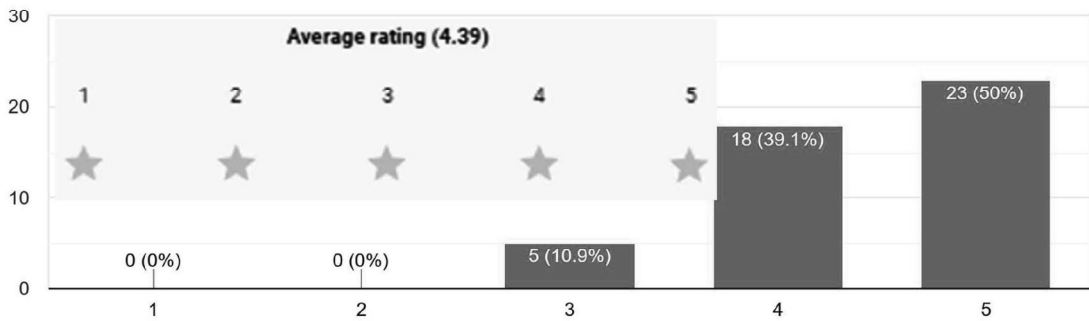
- 行政
- 社協
- 民間
- 社会福祉法人
- 大阪社会福祉士会

事例検討での事業名
48件の回答

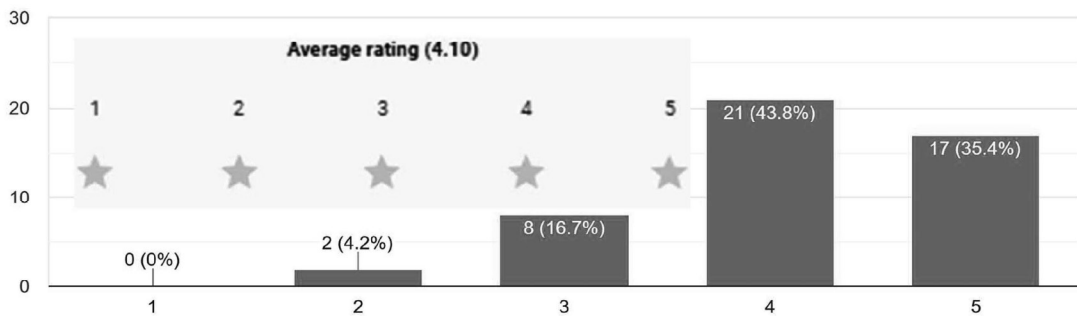


- 自立
- 就労
- 家計
- 居住
- 子ども

【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
46件の回答

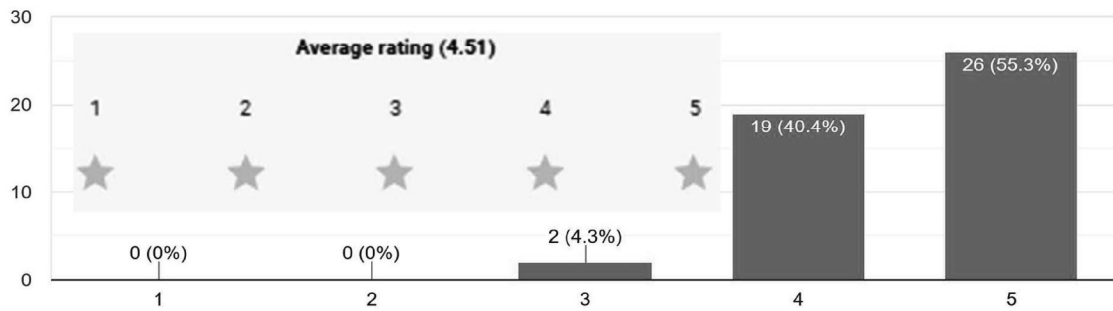


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
48件の回答



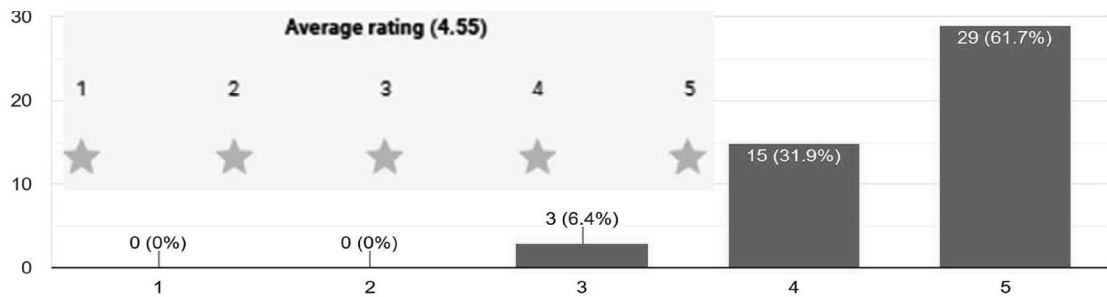
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

47件の回答



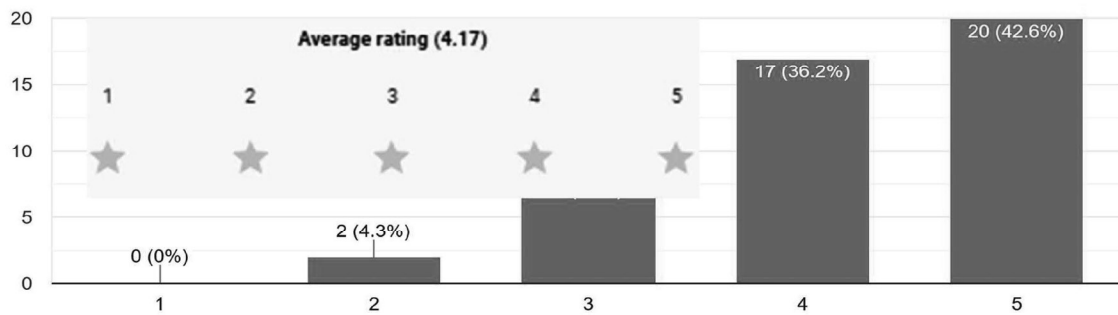
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

47件の回答



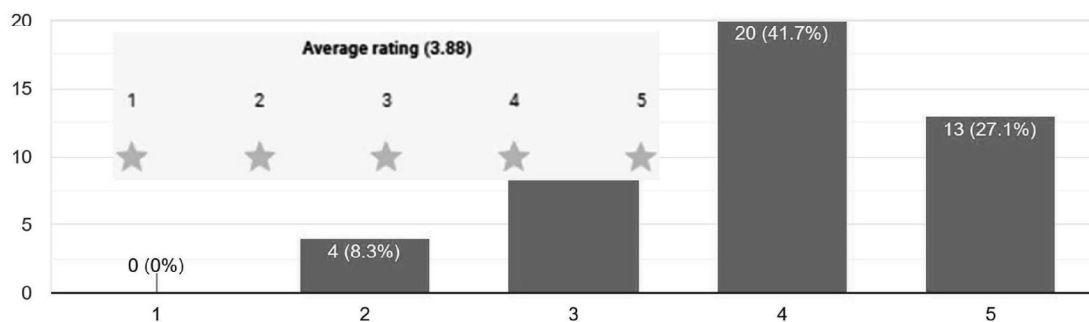
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

47件の回答



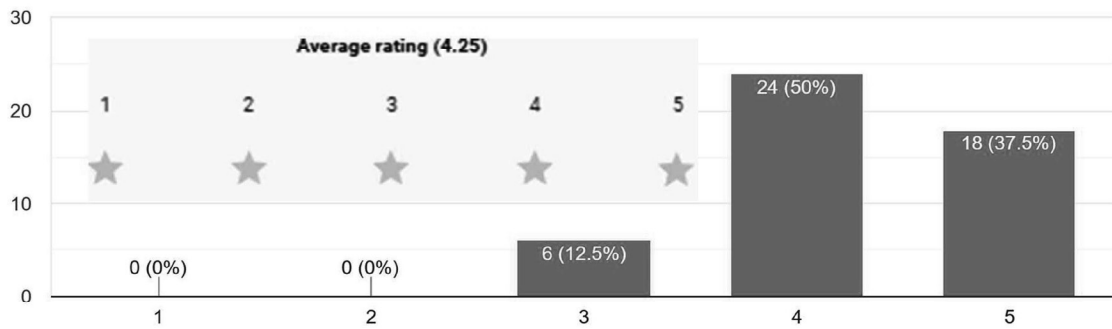
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

48件の回答



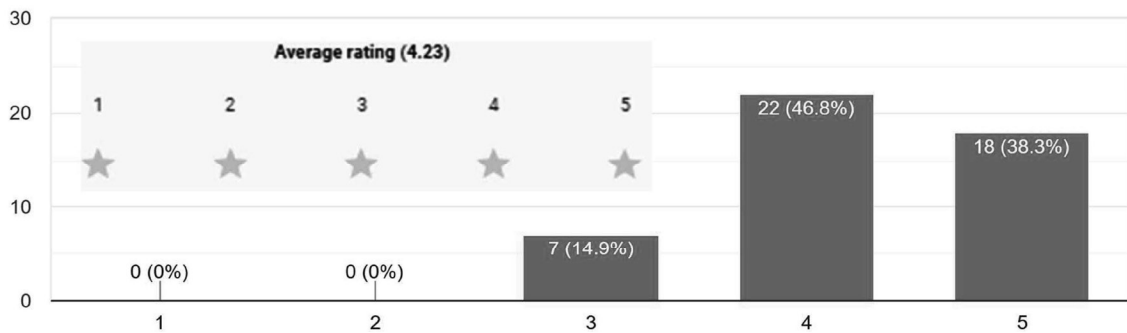
【全体】 (1) 全体を通した内容について

48件の回答



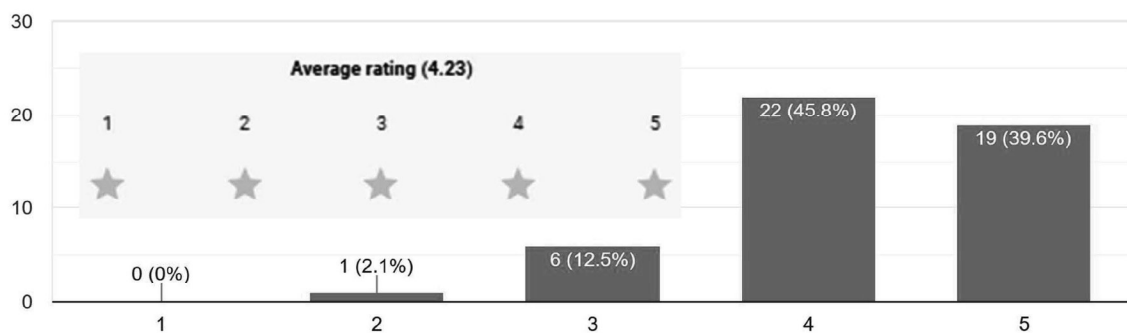
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

47件の回答



【全体】 (3) 全体の運営について

48件の回答



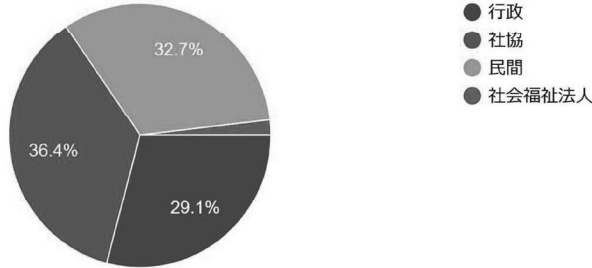
近畿ブロック
1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
相談員として何を一番大切と考えるか？、また、その理由について、グループで話をすることで、より深めることができました。グループの4人中3人が「信頼関係の構築」で、もう一人が「継続」で、自身の取り組み気持ちが新たにりました。
8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について改めて確認する機会になりました。最も大切にしている項目について各々で考えグループで話し合い、支援員それぞれが何を大切に支援されているかよくわかり、現場でも一緒に働く同僚にも確認しながら支援に入れるとより良いと思い、活用したいと思いました。
チームアプローチの展開は参考になりました。そして、横の繋がりがや福祉資源の開発が必要と感じる事ができました。
個別的支援は、パターンに当てはめず、一つ一つ丁寧に適切なサービスを探せるよう努力したいと思いました。「あれば使え、なければ作れ。」ですね。
1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
地域のネットワークを強化することで、生活困窮者の早期発見や見守りが大切だと言う講義で、地域づくりも今以上に考えていきたいと思った。機関のつながりも大切にしていきたい。
地域づくりというゼロから作り出さないとはいけないと思込んでいたが、振り返ってみると本市にも活用できる社会資源がたくさんあることに気付けた。
わたしのまちの地域づくりの「芽」を気づかず踏み歩いている状態。たくさんの芽をみつけるために関係機関だけではなく、よりよい地域づくりのため地域の人や企業の人たちに声をかけていきたい。
積極的支援を、検討しても良いのだと思った。多職種とも連携して支援してきたが、市には街づくり推進する課や、地域活動支援コーナーなどもあるが、支援員自身から相談者のその先の支援には至っていない。今後は連携することも検討する。色々な芽にも目を向けていきたい。
1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」
支援員のキャリアアサーフとしてのスタイル。その中のパドリングを自立支援に例えた考え方、キャリアアサーフシートでの自己理解、社会人のしての姿勢、支援員としての重点をおいた支援を改めて向き合い、よりよい支援を目指せるようにしたいと思った。
キャリアアサーフの考え方を活用したい。現在自分が、何を理解しているか、やっているか、伝えられるかを確認することで、成長できると思う。
自身が、今どの位置にあるのか、支援員としてなにか出来ているのか出来ないのか？整理し、振り返ることが大切。ペアワークについてはまず良く来てくれたという姿勢が大切。自己開示の難しさを、実感。支援することばかりではなく、相談者の気持ちを見失わぬようにすること。
1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」
支援員は問題解決に真面目に取り組んで自分の知識や経験からできる限り支援したい、相談者が少しでも良くなって欲しいと強く願います。メンタルヘルスに関しては、注意が必要と感じました。上司同僚といつも話し合える環境づくりや、意識してスイッチオンオフを作ります。
日常業務でも、これで良かったのかと感じる事があったり、業務量が多くて、気づかない間にストレスがたまっている事もあると振り返る事ができました。職場内でも、同僚や上司のストレスに気づいてお互いが支え合える職場は大切だと思いました。
支援員がメンタルでダメージを負うことは、個人の心の強さや、技量が原因として捉えない。セルフケアだけではなく、職場・組織が支援員に負荷がかかりすぎないように仕組みづくりをしていく。
2日目 事例検討の内容
専門事業が違えば視線がわかり、異なる支援方法が考えられる。当事者に寄り添った支援がより可能になると思った。支援は慣れてくると、自分だけで決めた方法を取るようになるので、他の人の意見も取り入れるようにしたい。
アセスメントでいかに今までの生活状況や困ったことを知ることで、今の生活につながってきたことを理解することができるので、相談者の思いや大切にしなければいけないことを今後もしっかり考えていきたいと思った。
実践的な考察点が多く盛り込まれている事例でした。また、日頃、支援調整会議や情報共有において、ここまで深掘りして検討する機会がないので、大変参考になりました。事例にタイトルをつけることは、少し意識して実践したいと思います。
様々な事業で、着目する観点が異なり、非常に参考になった。これまでワークシートを作成した機会がなかったので、タイトルを考えることも新鮮だった。今後、意識的にストロングスに着目していきたいと思った。また急を要すること、そうでないことをよく考えて、支援を行ってほしい。
2日目 事例検討の進め方
それぞれの専門に分かれて検討しグループに持ち帰って改めて支援方針を検討する、というグループワークの方法は掘り下げた意見や議論ができてとても勉強になった。ただそれ以外の時間配分、各班ごとの発表においては時間がなかった為か表面的な感想に終始してしまいもったいなかった。
自立支援、就労支援、住居支援、家計改善支援のグループに分かれての意見交換する事に今までになかった研修と思った。但し実務の時はこれらの事例を個人で考えている。その後ベテランの相談員に意見をもらったり別の角度からの視点を聞いているが、今回のグループ討議では色々な角度からの意見が集まるので良かったと思った。
自立の事業別演習において自分の発想を超えた課題想定がたくさん参加者から提示され、アセスメントの奥深さを学びました。「制度に当てはめる」「支援者視点での支援」になりがちで、日々の業務の中で、解決を急いでしまうことには気をつけたい。「優先順位」「理想と現実」というワードにも、場面によっては本人を中心とした支援を阻害してしまいかねないな、と考えさせられました。
一つの事例を掘り下げることで、アセスメントの共有や課題整理、分野ごとの支援のある方に時間をかけて向き合えることは良かった。
全体通しての感想・意見
小規模事業所では他の支援の現場を知る機会がなかなかないので、このような場を通してやっている事の確認が出来、支援者の勇気づけにもなる。
3年ぶりくらいの研修となり、今回参加したことで、改めての理念、基本姿勢、基本倫理を学ぶことで、視野の広がりや、固定観念の部分が和らいだような思いができました。自身の支援のおごりともう一度見直したい。進めて行く中の課題はあるが、最終は相談者の尊厳の確保を中心としての支援ができるようにしていきたい。
基本的な知識だけにとどまらず、実践で得たものをどう次に活かしていくのかという踏み込んだ内容になっていたので参加して良かったと思いました。また普段、主任相談員以外は他の相談員と意見交換できる場がなかったので、皆さんとモヤモヤを言い合え共感してもらえたこともとても良い時間でした。
和気あいあいとしながら、取り組むことができました。何より、私自身普段の相談対応がパターン化しているな、と感じていた。パターン化になりやすいため、定期的にこのような研修を受け、振り返りをしながら、私自身の相談対応の見直しに取り組んでいきたいと思いました。

R7 関東・甲信越ブロック現任者研修アンケート集計結果

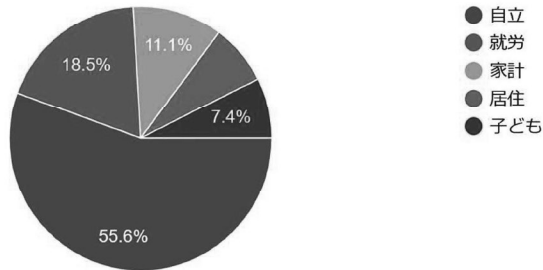
2026/2/3

所属先分類
55件の回答

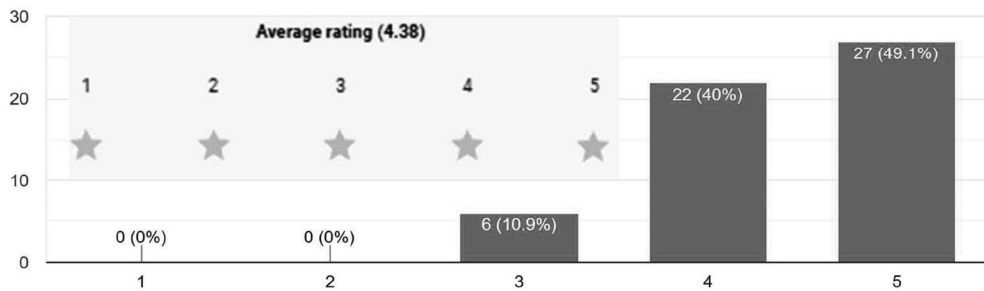
受講者110名 回答率50%



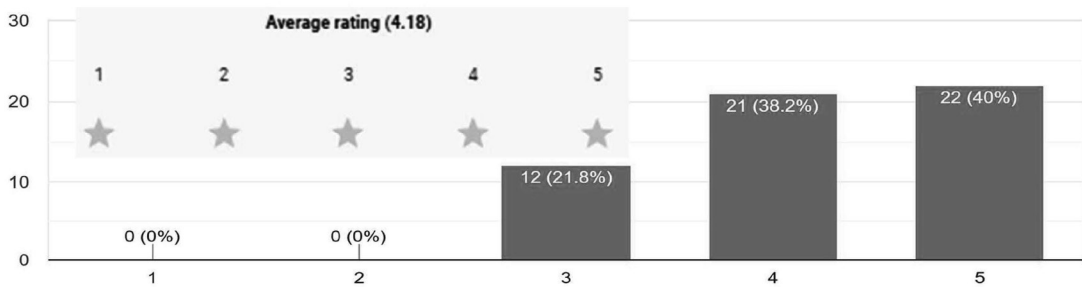
事例検討での事業名
54件の回答



【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
55件の回答

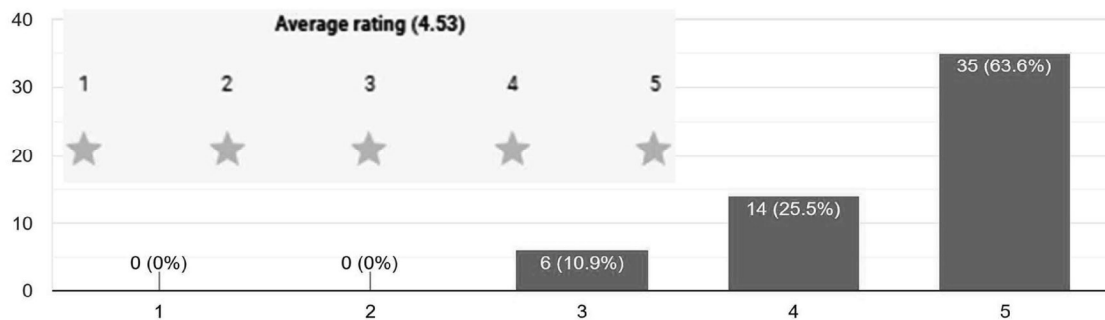


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
55件の回答



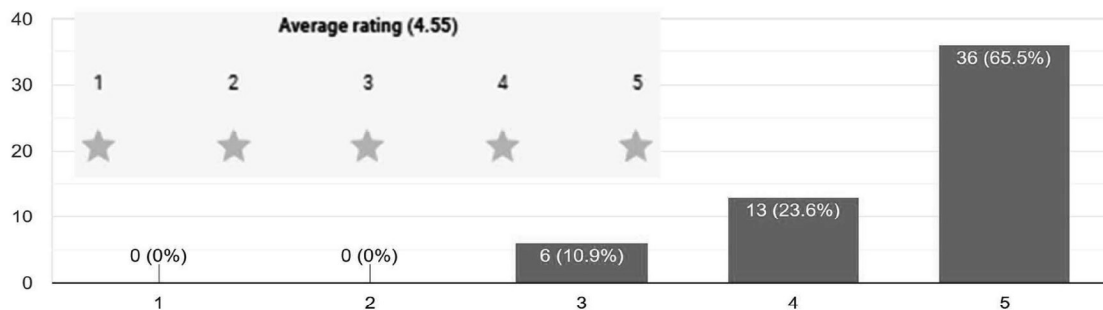
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

55件の回答



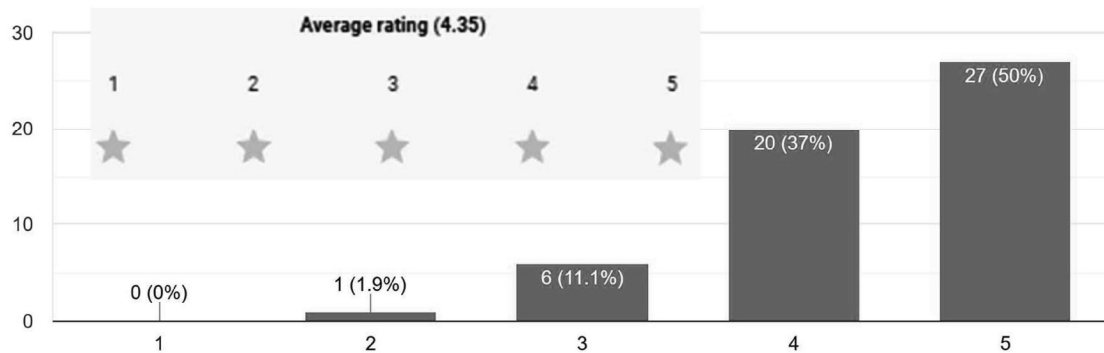
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

55件の回答



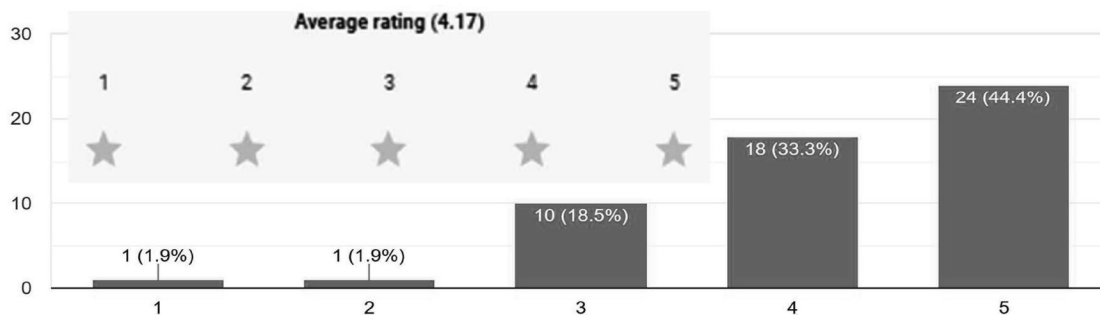
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

54件の回答



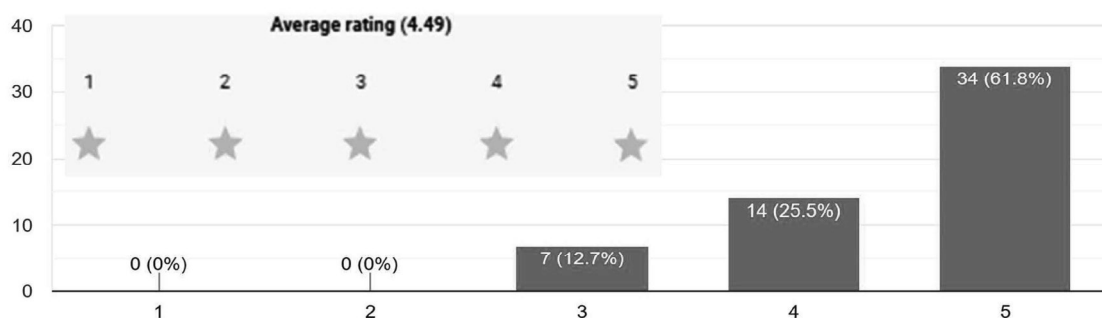
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

54件の回答



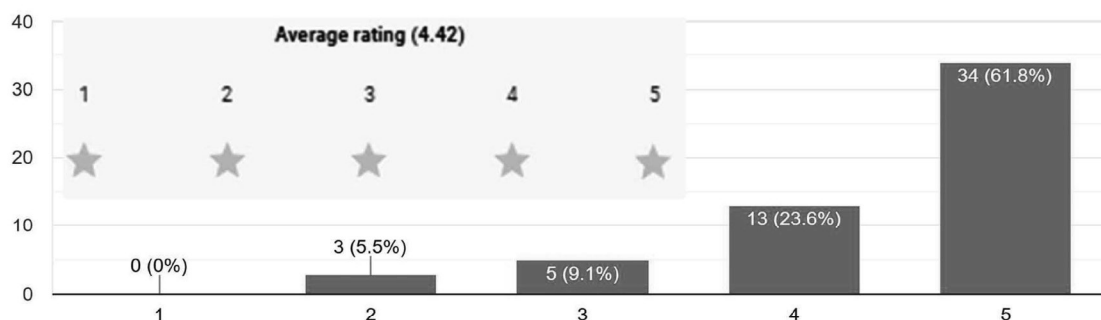
【全体】 (1) 全体を通した内容について

55件の回答



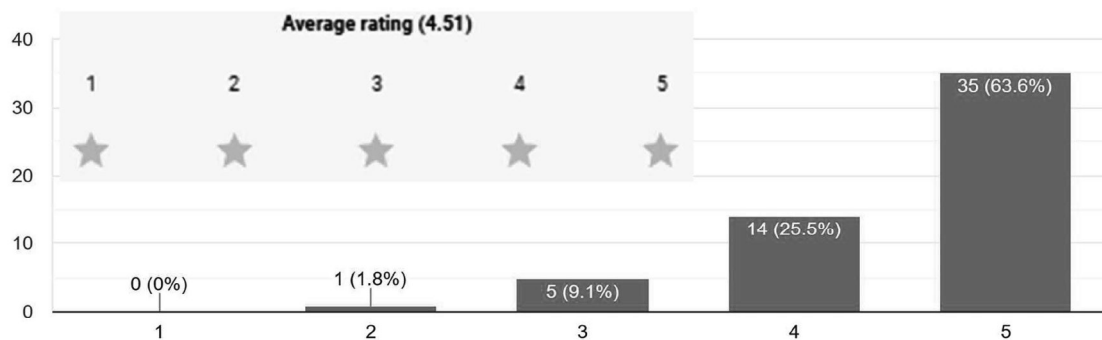
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

55件の回答



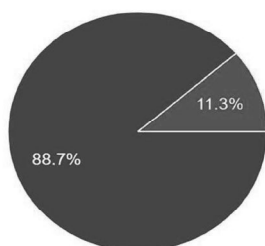
【全体】 (3) 全体の運営について

55件の回答



1日目と2日目と同じグループにしましたが、いかがでしたか？

53件の回答



- 1日目と2日目は同じで良かった
- 1日目と2日目は変えて欲しかった

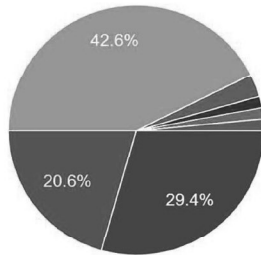
<p>関東・甲信越ブロック</p> <p>1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」</p> <p>理念を理解することは、判断に迷った時の判断軸となることを学んだ上で、グループワークのエピソードから、本人の失敗を防ぐために先回りしていたことに気づいた。待つ力、我慢する力を磨きたい。</p> <p>現場にいと目の前のことに追われてしまい、立ち止まって理念を再確認することも怠ってしまいがちだったので、今回の研修で改めて理念の再確認ができ、支援の在り方の原点に立ち返ることができました。生活困窮者支援における8つの基本姿勢の8について、社会資源の開発よりもまずは既存の資源の発見に目を向けることが大切であるというお話があり、はっとさせられました。</p> <p>8つの基本姿勢を基に相談者への支援をしていきたいと思う。また、相談者の自立と尊厳の確保については、支援を行う上で重要であるため、複数の選択肢を用意し、その中から相談者が自己決定できるように支援をしていきたい。</p> <p>相談者の困りごとを解決していくことが優先になってしまうこともあり、相談者の願いや希望を中心に支援がすすめられないこともあるが信頼関係を構築し、自己決定・自己選択が出来るよう、相談者中心の支援を実施していくことを再確認した。</p>
<p>1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」</p> <p>支援者が決めた「地域」ではなく、本人の暮らしや行動範囲から「その人にとっての地域」を定義すること。生活困窮者の多くは地域に知られたくない思いを抱えており、画一的な地域参加はつながりにくい現実がある。だからこそ、本人の日常や安心できる範囲を丁寧に理解し、既存の人や場を活かしながら、支援を通じて地域と抱え合う関係をつくることが重要。</p> <p>地域づくりには「地域を知る」ことが不可欠であると改めて実感した。地域住民や地域資源の開拓に加え、他機関との連携や他の制度についても、さらに理解を深めていく必要がある。</p> <p>グループワークでの意見交換の中で参考となる事例を聞くことが出来た。現在の職場が小さな市であることから、社会資源が少ないが、他の支援機関と協力していけるような関わりを作って行きたい。</p> <p>生活困窮者の早期発見や見守りのためには、地域のネットワークが重要であることを再認識した。他職種の連携や居場所作り、人とのつながりが重要であり、地域にある、ヒト・モノ・コトを「知る」ことが重要な活動になると思い、自分たちの地域のことをもっと知ろうと思った。</p>
<p>1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」</p> <p>支援に向けてのことばかり考えていましたが、キャリアサーフを通して、自己理解をし、自分のくらしと仕事のあり方を描くことにより、自己受容がなされ、支援者に対する姿勢が変わり、支援者を受容し、尊重することにつながるができるのではないかと思います。</p> <p>支援者として本人のタイミングを尊重できる心のゆとりを持てるようスケジュールしていこうと思った。自分自身の支援を振り返る場（時間）を作り、制度や理念とも照らしてみる。これからもメンバー・上司とも相談できるような積極的なコミュニケーションを取っていこうと思った。</p> <p>キャリアサーフシートの活用を現場でも行いたい。自分含め、年数が経過すると相談に慣れが生じ福祉現場での常識みたいなものにとらわれがちになっている。社会人としての姿勢・相談を受ける姿勢から現場でもシートなど活用したい。</p>
<p>1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」</p> <p>現場での実践において活用できると感じた点として、セルフケアの重要性が挙げられる。オンとオフの切り替えを意識することに加え、安心して働ける職場環境の整備も同様に重要である。そのため、今後は周囲の職員とより積極的に情報共有を行い、働きやすい職場づくりに努めていきたい。</p> <p>支援員のメンタルヘルス悪化は「個人の弱さ」ではなく、日々ダメージを受け続ける仕事構造による組織課題である。だからこそ、支援員が孤立しないように、心理的安全性のあるチーム支援とセルフケアを両輪で整える必要がある。</p> <p>相談者を支援していく中で、支援がなかなか上手くすすんでいかない状況になることがあり、支援員がストレスを抱えてしまうことが時々ある。そのストレスを溜めないようにセルフケアが大事であり、オンオフの切り替えはとても重要である。話しやすい助け合う職場づくりは重要であり、チームワークが生まれることで、高い支援にもつながっていくと思った。</p>
<p>2日目 事例検討の内容</p> <p>事例検討は解決策探しではなく、本人の人生や気持ちを想像し、主体性と尊厳を大切にしながら支援を考えること。限られた情報でも人の輪郭を描き、強みや可能性に目を向けて、本人が取り組める現実的な道を一緒に考える姿勢が重要だということ。</p> <p>一つの事例検討でも、地域や支援者の立場の違いにより、様々な考え方や支援方法があることを学んだ。自身の現場でも多職種連携による事例検討やケース会議を開催したいです。</p> <p>どのような状況にあっても、自己決定・自己選択の大切さを改めて感じました。できるだけいろいろな選択肢を提示しながら、本人に寄り添い一緒に悩み考えることが支援員の役割であることを学びました。</p> <p>相談者と面談し支援をすすめていく上で、相談者に自己決定してもらうが、自分の支援の進め方だけではなく、他の支援員の見立てや考えを参考にすることはとても良いことだと感じた。自分では考えつかなかったことに気づけたり、見方を変えることで良い支援に繋がることもあると思った。</p>
<p>2日目 事例検討の進め方</p> <p>ひとつの事例を一日かけてじっくり向き合ったのが初めてでした。他の研修はいつも不消化でしたが、途中でグループが変わった事も、深く掘り下げが出来て良かった。</p> <p>各専門分野に分かれて再び元のグループに戻ったことで、学びが深まった。経験豊富な方が多く、制度にも精通されている方から住居確保の転居費用や、フードバンクの利用などについて、また子どもにかかわる立場の視点として生活環境を確認しておく必要など学ぶことが多くありました。</p> <p>グループワークでは、「自立」「家計」「子ども」「就労」の各分野から意見を出し合うことで、支援を一面的に捉えず、生活全体を見直す重要性を共有できた。それぞれの視点を組み合わせることで、より実践的で具体的な支援の方向性が明確になった。</p> <p>一日かけて一つの事例を深掘りし、支援のあり方に正解を求めるのではなく、参加者一人一人の考え方や、たくさんの方の学べることができ、大変勉強になりました。</p> <p>気になった点、①②③それぞれでの到達目標が事前に、はっきりわかっていればよかったと思いました。</p>
<p>全体通しでの感想・意見</p> <p>1つの事例で色んな立場の人と色んな意見を出し合う事例検討はとても有意義な研修となりました。おしつけでも決めつけでもなく本人を労い、緊急度も大事だが長い視点で自分の力で自分の人生を決める、考えていけるように、それを待てる支援者であること。迷ったとき行き詰った時に制度の理念に立ち返り、支援の方向性を再確認する良い機会となりました。</p> <p>久しぶりの対面での研修だったが、とても勉強になった。対面研修はオンライン研修と違い、講師の方や支援員同士の交流もでき、その場で生の言葉を聞けるのでとても良かった。他市の情報が得られたり、困っていることなども相談できたりするので参考になった。</p> <p>支援員との交流は大変有意義で得るものが多かったです。現場ではそれぞれ工夫をしながらの支援されていることが分かりました。また、現在の自身の所属先も客観的に見ることができ資源を総括活用して支援に臨みたいと強く思うことができました。経験値のある方々とのワークで多種多様な意見交換ができたのかと思います。</p>

R7 九州・沖縄ブロック現任者研修アンケート集計結果

2026/2/9

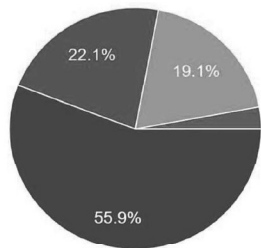
所属先分類
68件の回答

受講者112名 回答率61%



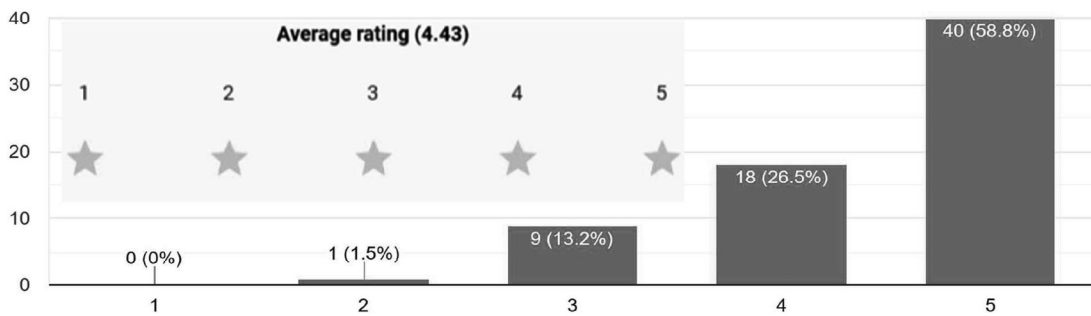
- 行政
- 社協
- 民間
- 社会福祉法人
- 委託事業
- 社会福祉法人 グリーンコープ
- 公益財団法人

事例検討での事業名
68件の回答

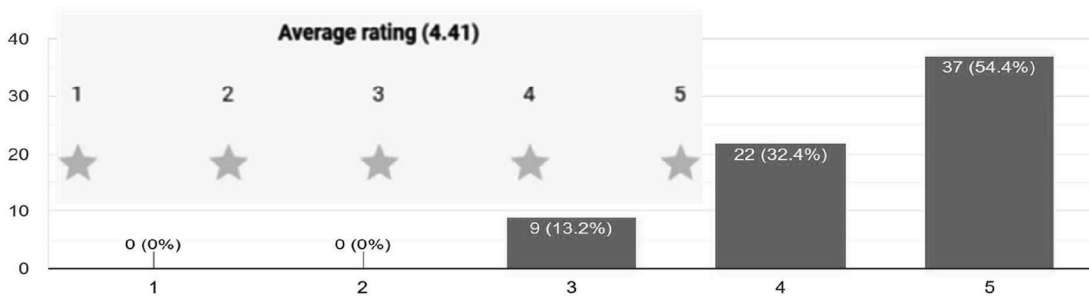


- 自立
- 就労
- 家計
- 居住
- 子ども

【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
68件の回答

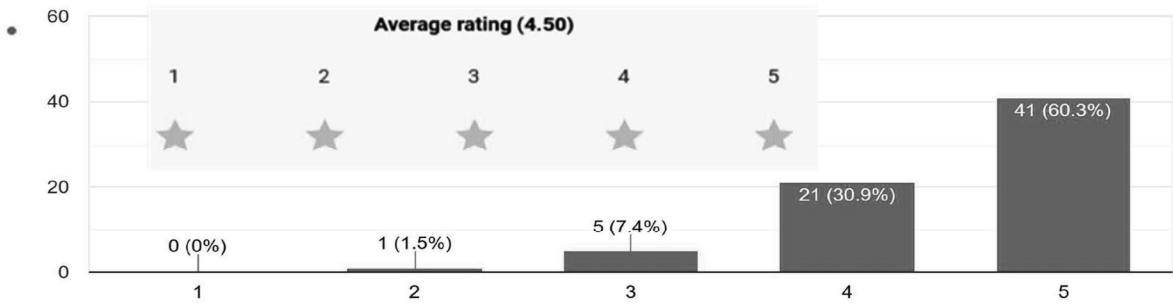


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
68件の回答



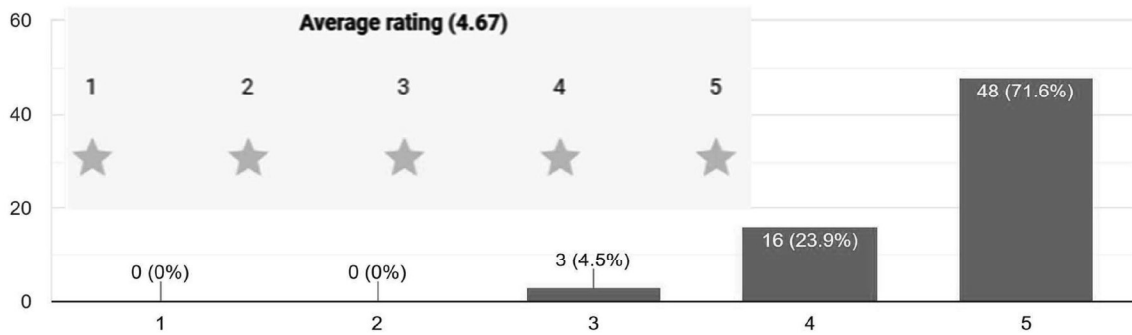
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

68件の回答



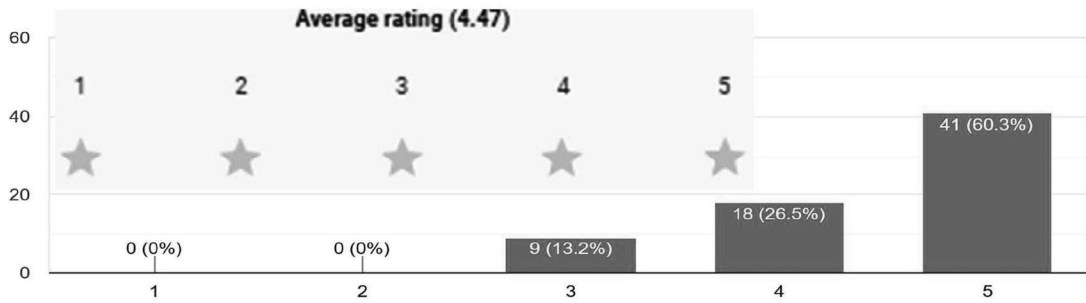
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

67件の回答



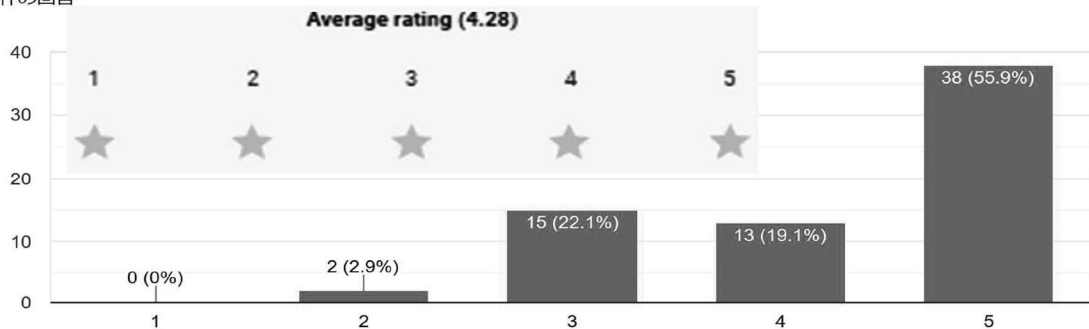
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

68件の回答



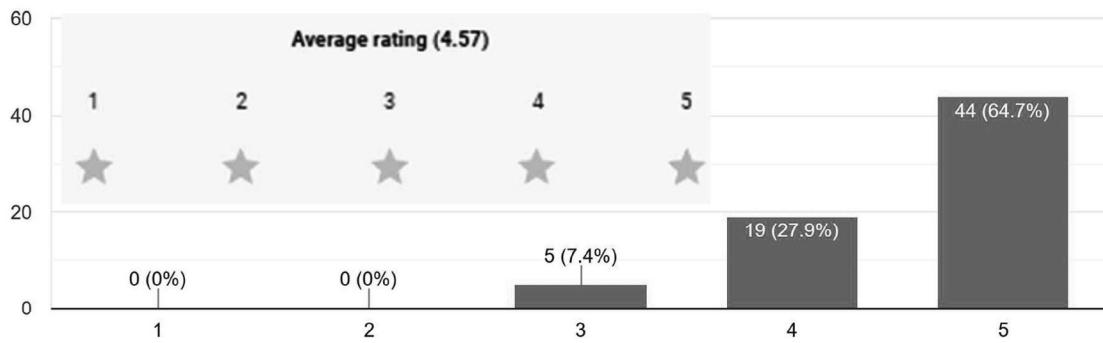
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

68件の回答



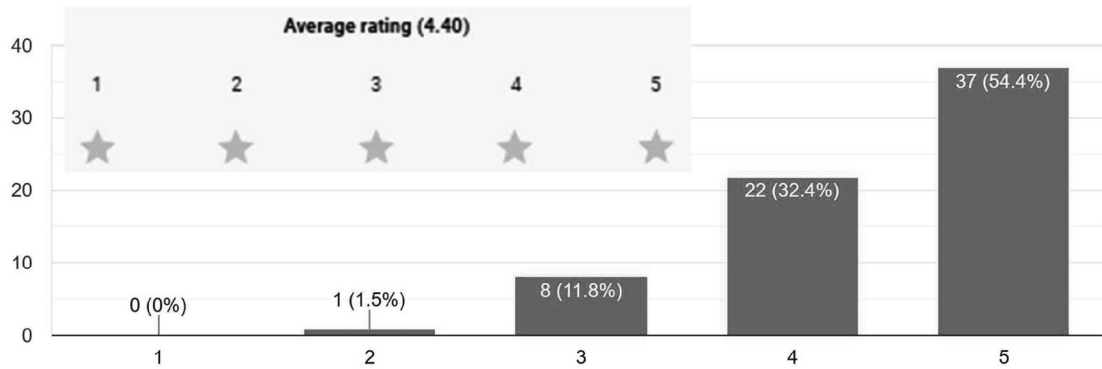
【全体】 (1) 全体を通した内容について

68件の回答



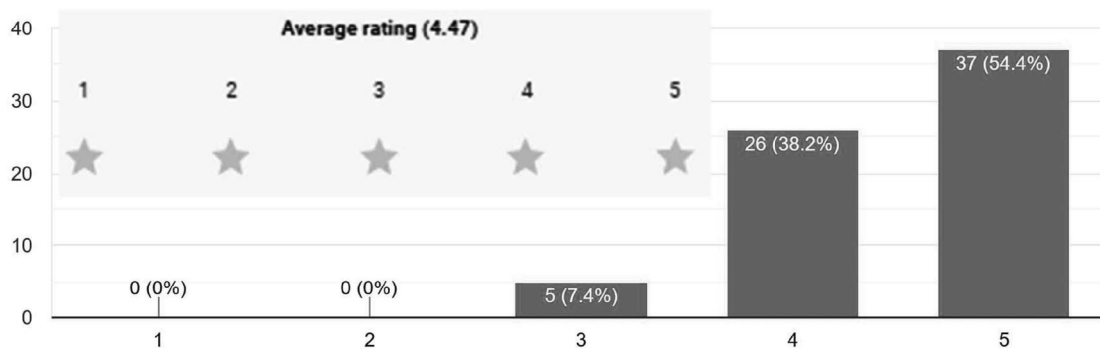
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

68件の回答



【全体】 (3) 全体の運営について

68件の回答



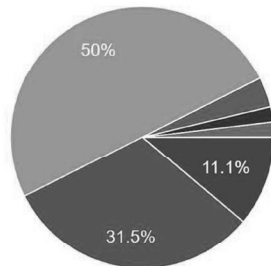
九州・沖縄ブロック	
1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」	
相談者の尊厳を意識しつつ、相談者の自立に向けた社会の中での役割を見つける事ができる支援を行うように意識を持って取り組み姿勢を確認することが出来ました。	
相談者の中には、社会とのつながりが薄く、自らで相談することが困難なケースも多いため、関係機関など横のつながりやアウトリーチ等により相談者と繋がることで、早期に対応ができる。こまめに関係機関との情報共有が必要だと思いました。	
施行当初から制度に関わっているが、今回の改正点などが整理出来ていなかったためいきつきけになった。またアウトリーチによる支援について、事前準備の重要性と相談者に会いその世帯の事を知るまでに先入観で支援を行わない(役場各所からのつながりが増え事前情報で先走り支援方法を考えてしまう)ことが大切であることを改めて確認することが出来た。	
これまで支援員として相談業務に長く携わる中で、制度理念の『地域づくり』、基本姿勢の『社会資源の開発』部分について、漠然と壮大な印象があり、支援員としてどのような方向性で、何をどう形にしているのか、どのような方法があるのか、何をすべきか、イメージがわかなかったが、講義②に繋がっていく形で研修を通して具体的なイメージに繋がりました。	
1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」	
支援する側・される側という関係を超えて、生活困窮者も地域社会の一員として積極的な役割を果たすためにも、地域づくりのレベルを上げる取り組みを具体的に挙げる目標が出来た。	
地域づくりというと、支援員自身で開拓をしなくては、という考えが大きく、なかなかそこまでできないというプレッシャーみたいなものを感じていましたが、相談者の方が関わる地域、支援機関との連携、信頼関係を築きながら、相談者に合った支援をその地域の方たちの力を借りて開拓していくというのであれば、自分でもできそうだなとハードルを下げる事ができます。また、日頃のチーム支援、多機関との連携、支援調整会議の場も地域づくりに繋がっていくことで、大切にしたいと思いました。	
グループワークを通して、自身の地域の強み・不足を知る事が出来た。相談支援を通して相談者に必要な事を、関係機関とのチーム支援・連携を通して足りない物を形作っていく事や地域資源の活用も『地域づくり』である。『見つけようとする姿勢』や多角的な観点から『視る・考える』習慣をつける事が地域づくりに繋がる一歩と知る事が出来て、『地域づくり』が具体的に見えてきました。	
支援者目線ではなく、本人の視点本人から見えている世界(地域)を理解する(理解しようとする想像力)が重要であるとの言葉にはっとしました。改めて、本人の視点(思い)を知り、理解し共有しながら地域作りに活かしていくことの大切さを学びました。	
1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」	
キャリアアップの考え方はイメージしやすく、今の自分の位置確認がしやすいと思いました。職場でも他の支援員とも共有したい内容ばかりでした。特に、基本姿勢やマナーは組織として意識していかないと気がつかれました。メンバーシップももっと共有したい。	
キャリアアップ・シートによる自らの振り返りやあり方の検討は初めての経験だったため、今回は難しく受け取ってしまいましたが、支援員として立ち返ることを念頭に少しずつ活かしていきたいと考えました。	
キャリアアップの2つのポイントを今回初めて知りました。時々立ち止まって見て、日頃の自身を振り返る(ワークライフバランス、支援員としてのスキル、メンタルヘルス等)ことを、シート活用で対応し、他職員にも共有します。また、ともにサーフィンをしている仲間がいる、ということ職員皆で感じられるよう、安心安全な環境を提供していけるよう努めたいと思います。	
1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」	
自治体によっては、自立・就労・家計を1人でさせているところや、そもそも支援員が1人しかいないなど、すぐに相談できる同僚や上司がいない環境で支援をするとなると、相談員自体が潰れてしまうのではないかと感じた。また、不満や愚痴は溜め込むのではなく、相談できる相手に相談し、風通しの良い職場作りが大切だと思いました。	
「支援員は相談を受けるたびに小さな傷を受けながら仕事をしている」という言葉に大きくうなずいてしまった。チームワークのために互いの日々の声掛けが必要ということで、事業所でも気にかけていながら業務にあたりたい。	
メンタルヘルスへの対応の仕方の基本についてや、チーム作りの視点については日常的な業務において活用ができると感じた。グループワークのなかで他の自治体の支援者が感じているもやもやなどを共有することで、自分の感じているメンタルヘルスの課題などを消化できた。	
2日目 事例検討の内容	
支援をしているとつい失敗しないようにと慎重になり過ぎてしまい、その人のニーズや思いが薄くなりがちになるが、相談者の思いを汲み取り配慮をもって支援していく事が大切であるという事を学び直す事ができました。	
1つのケースの中の1つの課題についても相談員のパーソナリティや立場や経験の違いによって様々な見方、アイデアが生まれ、ディスカッションの大切さを実感した。また支援方針を早い段階で決め打ち、固定してしまうのも支援の妨げになることがあると感じ、今後のケース検討に活かしていきたいと考える。	
事例を振り返る中で、相談内容として困っている状況や課題を整理しながら、本人の心情に目を向けて考えることができました。その中で、日々の支援では本人の現状回復に意識が向きやすく、心情への着目が十分でなかったことに改めて気づくことができました。今後は、本人の現状や課題を見ることと同じくらい気持ちで、本人の心情にも丁寧に寄り添っていききたいと思います。	
一つの事例に対しての検討をじっくりすることでアセスメントに必要な考え方や、今後の支援方針、全体的な支援の組み立て方などを再度考えることができた。グループのなかで話をするなかで、今後の支援に活かせるようなアプローチの方法などを知ることもできた。	
2日目 事例検討の進め方	
検討する方向が変わり、全体的、専門性、そしてトータルに、と深掘りできたのが良かったです。色々な意見を聞いて、改めて、自分の考えも少し変わったりと面白かったです。	
自立・就労・家計・子どもなどに分かれ、各分野からの視点で支援の方向性について、考えることができ勉強になった。専門業務の中でもいろんな視点があり、まず相談者がどんな人なのかを考えることにより背景や思いを汲み取り本人の意思を尊重し寄り添うことが大切なんだと感じました。	
今回の事例検討の進行は、これまでになく新鮮でした。支援員は支援ありきで課題を探る癖がついているということが分かり、反省させられました。課題に結びつけるだけの支援ではなく、当事者の気持ちを優先して考え、それから当事者の気持ちに寄り添う支援を考えることで、たくさんの意見が出て、支援の幅が広がらずに時間がいくらあっても足りませんでした。	
自分の中で事例を振り返り整理したうえで、グループ内で話し合うことができ、とても良い時間となりました。また、一つの事例を事業別に話し合うことで、それぞれの立場や専門的な視点から、本人や本人家族について考えることができ、有意義でした。	
全体通しての感想・意見	
全体を通してグループワークが多く、他の自治体の意見を聞くことができて良かった。今回の研修を通して他の自治体と話ができたことで今後の支援をする上での参考になった。	
生活困窮者自立支援制度の理念を再確認したスタートで、後半は支援員としてチーム支援の大切さや自身や他職員のメンタルヘルスの向き合い方を学び、二日目は一つのケースをより深掘りして、また各事業に分かれてのワークを通して、それぞれの事業の強みも確認でき、バランスよく学べた二日間になったと感じています。	
支援や日々の業務に苦慮していたり、もやもやもあったり、日々の生活での大変さなども共有でき、みんなが頑張っているんだと実感できた。生活困窮者自立支援制度の基本的な理念、基本姿勢を再認識し、今後の支援の基盤としていきたい。そのうえで、当事者本人の価値観とチャンネルと合わせることも関係構築をおこなっていくうえで大事であり、円滑な支援にもつながっていくことを理解した。生活困窮者自立支援を通じた地域づくりとして学んだことを、現在の所属している地域づくりに活かしていきたい。	
支援員になって、数年が経ち、久しぶりの他県の方の支援者との研修で、最初は緊張し、事例検討も新しいやり方で、戸惑いもあったが、楽しく研修を受けることができた。また、グループごとの発表のあと、講師の専門的なアドバイスもよかった。	

R7 北海道・東北ブロック現任者研修アンケート集計結果

2026/2/17

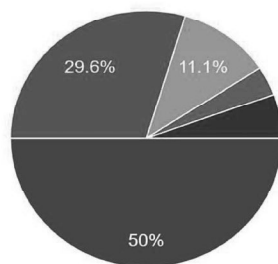
所属先分類
54件の回答

受講者82名 回答率66%



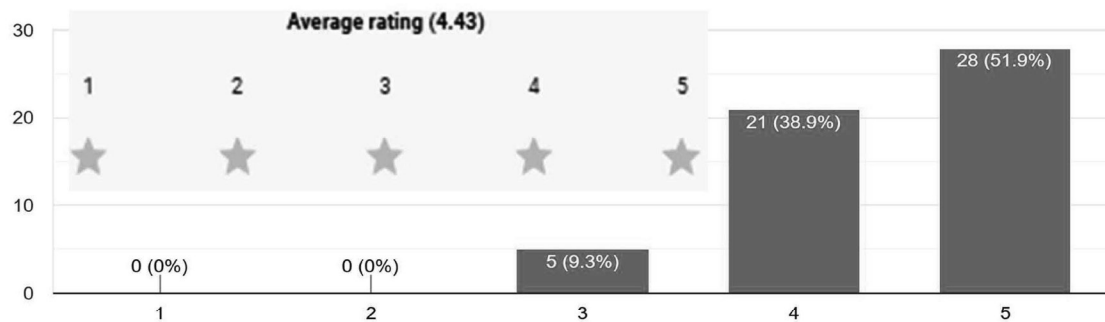
- 行政
- 社協
- 民間
- 労働者協同組合
- 医療法人
- 市からの委嘱業務

事例検討での事業名
54件の回答

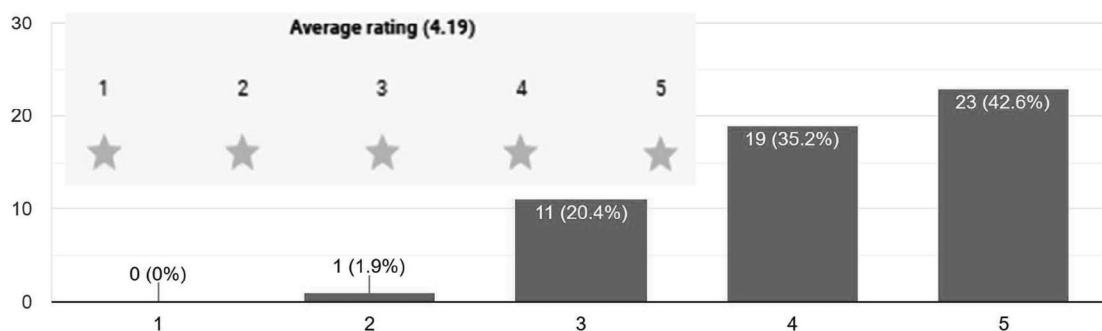


- 自立
- 就労
- 家計
- 居住
- 子ども

【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
54件の回答

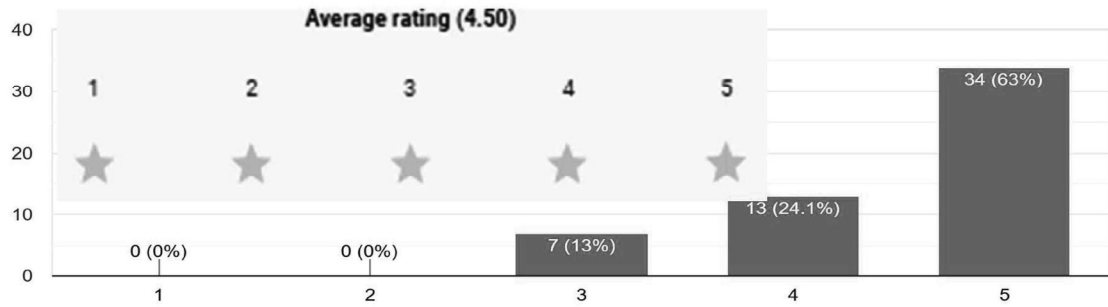


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
54件の回答



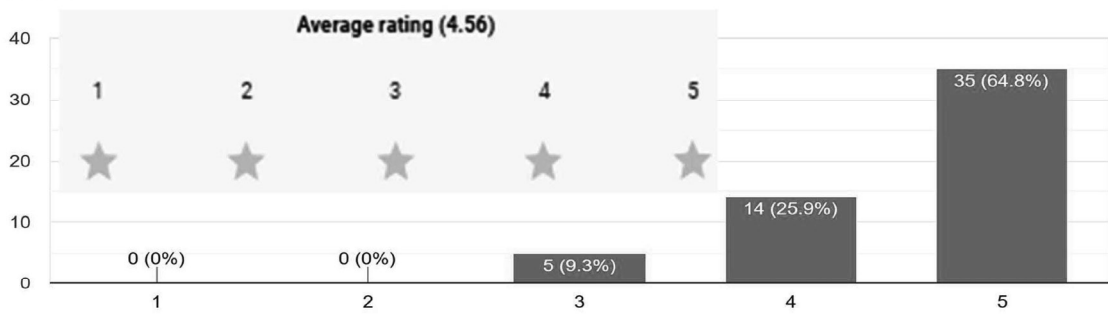
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

54件の回答



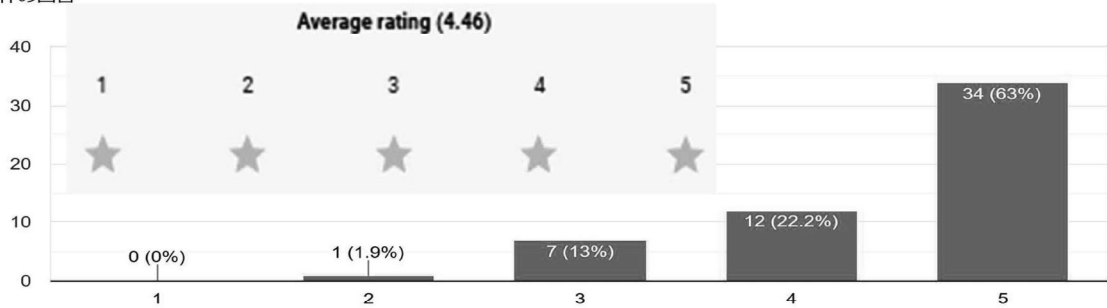
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

54件の回答



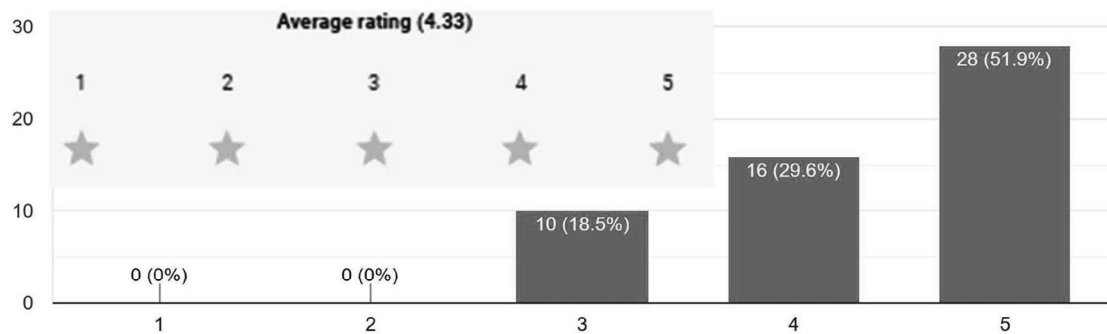
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

54件の回答



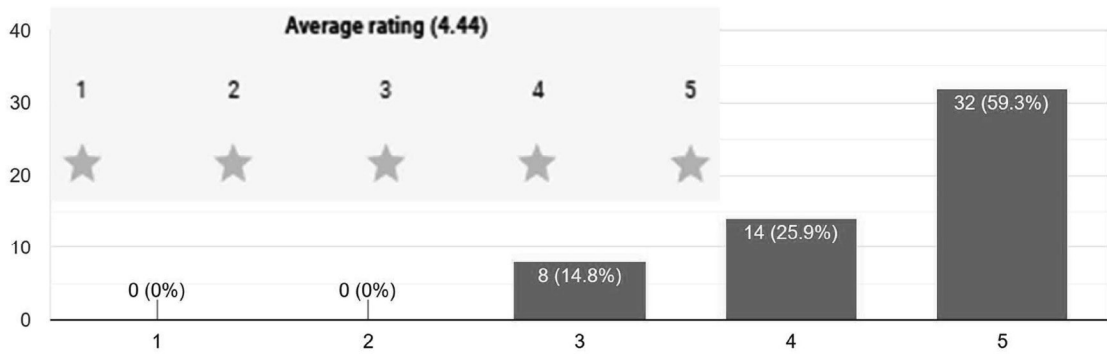
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

54件の回答



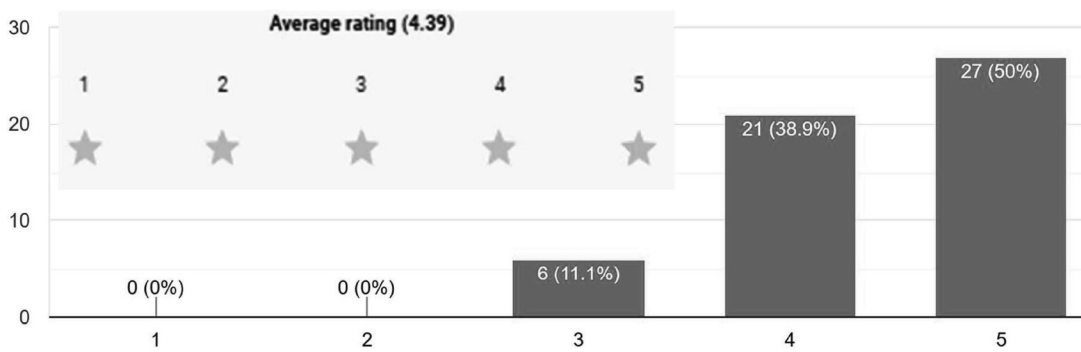
【全体】 (1) 全体を通した内容について

54件の回答



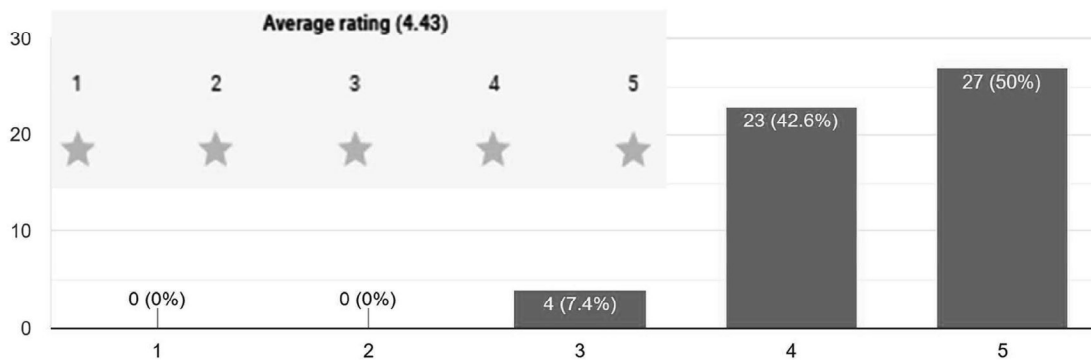
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

54件の回答



【全体】 (3) 全体の運営について

54件の回答



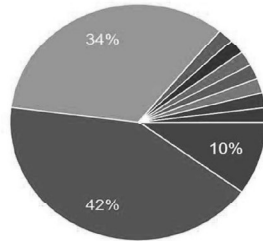
北海道・東北ブロック
1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
今までの研修でも何度か習ってきた大事な部分だと思っていますが、実際の業務に入ってしまうと忘れがちです。こういった研修で定期的に見直すことで改めて再認識でき、今までの支援過程において、もしかしたら不足していた部分が見直されるいい機会だと思いました。
尊厳の確保や本人の主体性など、本人のこだわりや譲れない事を確認しなから支援を行う。本人にやれることを伝えるが、伝わらない時は、伝え方を変える。アプローチを変えてみる。
8つの基本姿勢から、これまでも行ってきたことではありますが、包括的に対応する為、より多くの関係機関との連携をとること、早急な支援を要しない場合には時間をかけてしっかり向き合い、継続的な支援を行う、幅広い支援の為に社会資源の開拓を実践します。
普段面談の中で、やはり課題に目が行きがちでありましたが、今一度対象者の強みにも目を向けて、これから先の自立に向けて活かしていく視点を忘れてはいけないと思いました。
1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
新しいことを作り出すだけでなく、対象者の周りに今ある人、資源にどう結びつけていくか、それも地域づくりになっていくことを改めて感じました。
情報交換をした中で、日々の支援の中に地域との連携を行える機会が多々あると知った。敏感に感じとり、地域づくりに繋げたい。
やみくもに社会資源を開拓するのではなく、本人のニーズに対応した社会資源を活用する。今まで企業開拓何件という数字にとらわれていた部分があるが、そうではなく本人を起点に社会資源と繋がっていきたい。
地域作りの図を見てみるとまだ、連携をしたことがないところもあり、一度声をかけて連携を試みたいと思いました。地域の人にどれくらい自立支援センターがあると認識されているのかなど、まずは地域の民生員から認識を得たいと思います。
1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」
キャリアサーフ・シートに記入することで自分のできること苦手なことを整理することができました。相談者さんに寄り添った対応をするように心がけていますが、まだ経験が浅く、制度を活用したり、多角的な視点での対応ができていないので、シートを見ながら自分に足りないところを勉強していこうと思います。
キャリアサーフシートを利用することで、取り組みたいアクションを明確にし、取るべき行動を冷静に考えることで自分自身のあるべき姿が見えてくると感じた。毎年誕生日にシートの作成をしていきたい。
常に成長していかなければいけない思いがあったが、振り返りタイミングを待つ「キャリアサーフ」の考え方を聞いて見直しも重要であることが腑に落ちた。これは相談対応にも言える事であると確認できた。
1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」
心身のケアをし自身の体調を整えておくことが大切。また「チームでの仕事」をしているという自覚を持ち報告、連絡、相談を常に意識し相手にちゃんと伝わっているか確認していきたい
日々の支援の中で自分自身のことは二の次になってしまうことが多いが、職場全体でのケアと育成を考え、職員研修の場で、職員のメンタルヘルスを取り上げようと思った
普段の相談支援と同じように信頼関係からチームワークが出来ていくと捉えた。心理的安全性を考えながら働きやすい職場環境を作っていきたい。
2日目 事例検討の内容
可視化された一定の情報から、背景を想像し、読み解く力というのは少し養われた気がします。ほかの相談員の感想などを聞くと、自分では想像できなかった部分も出てきて、多角的な視点が大事になると感じました。
複数の視点が支援において必要であることを再認識できた。また、専門分野の知識をより知る必要性を感じ今後行うべきことに繋がった。
事例検討のワークシートでは、一人では多くは出てこないが、他の支援機関と一緒に話す、意見を聞くことで、相談者本人の見えない部分が出てくると感じた。自分一人ではなく、一緒に働く職員、他の支援機関にも意見を求めていきたい。
1日かけて事例を深めていくことで、その人のこれまでの人生や生き方、その人の価値にフォーカスできた。日々の業務では表面的な課題解決ばかり急いでいないか、相談者と関係を築く前に終結しておないだろうかと反省した。全てのケースに時間をかけることは難しいが、意識して関わることで接し方は変わると思うので、その人の生き方に思いをはせる関わりをしていきたいと思った。
2日目 事例検討の進め方
私たちは包括的に支援を行う自立相談支援機関なので、自立、居住、子ども、家計をそれぞれの支援員が分担して支援し、進め方を話し合うといった経験は初めてでした。実際の業務にはそのままフィードバックできませんが、チームプレイとはこういうものなんだということが理解でき、優先順位の決め方など活かせる部分もあると感じました。
一つの事例をまる一日かけてグループで検討すること自体が初めてでした。色々な視点があり、また地域によっての考え方の違いを感じました。
各事業ごとに分かれ最終的に混合グループで今後の支援を検討する進め方は初めてだったが、とてもよかった。一日を通して検討したことで、時間をかけて事例に思いをはせることができた。
一連の流れを一度で考えるのではなく、区分していたこと、今するべきことを分かりやすく示して頂きながらの事例検討となり意見が出しやすい環境でした。他のグループがまとめた内容を拝見することもでき、様々な角度からの意見がありとても参考になりました。
全体通しての感想・意見
支援員一人では解決することが難しいことも、他領域の方と意見交換をすることで、新しい対応案が見つかることを体感できました。地域でも多職種でも「連携したいけどできない」をなくしていきたいです。
広く他の支援機関での考え方、視点を話す機会となり、自分自身を改めつつ、自信を持つことにもつながりました。また、メンタルヘルスに関する研修もあってとてもよかったです。
研修は「現任者の健康診断」というのがありましたが、まさにその通りでセルフメンテナンスが必要と感じた気づきも多かったです。また初任者研修とは明らかに違ったレベルの高い意見交換、経験を感じさせる接し方・話し方などにも感銘を受けました。もっともっと多くの支援者に広めていきたいですね。

R7 中国・四国ブロック現任者研修アンケート集計結果

2026/2/16

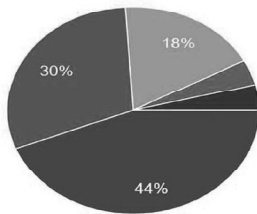
所属先分類
50件の回答

受講者77名 回答率65%



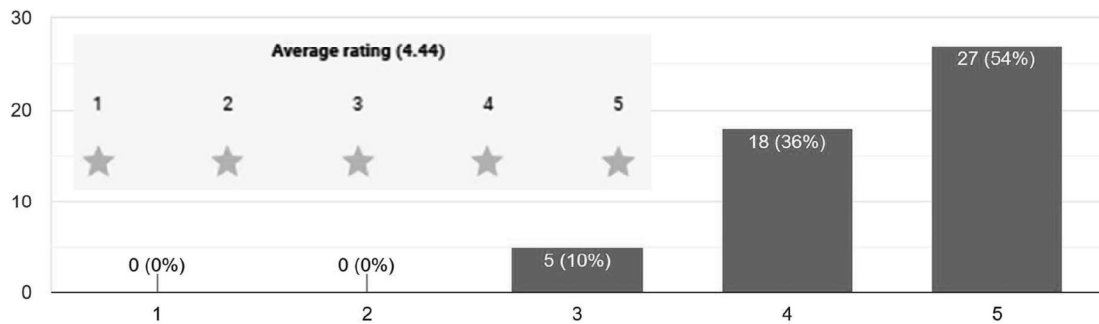
- 行政
 - 社協
 - 民間
 - 委託
 - 委託事業
 - 社会福祉法人グリーンコープ
 - 委託先
 - る労働者協同組合
- ▲ 1/2 ▼

事例検討での事業名
50件の回答

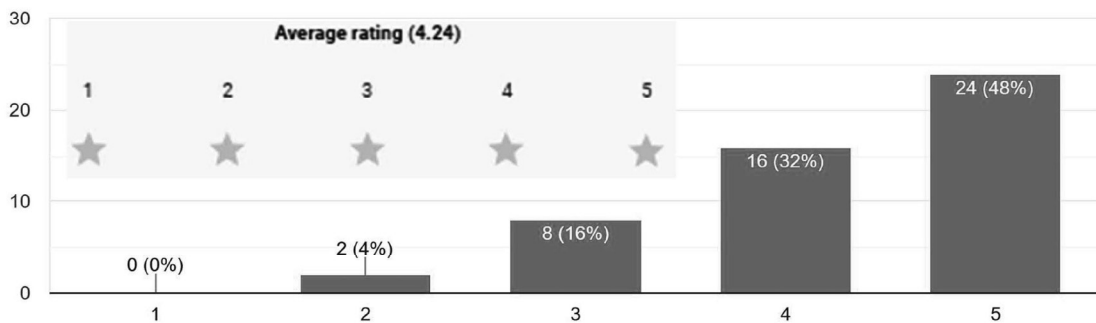


- 自立
- 就労
- 家計
- 居住
- 子ども

【1日目】 (1) 講義①と演習「制度の対象者...基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」
50件の回答

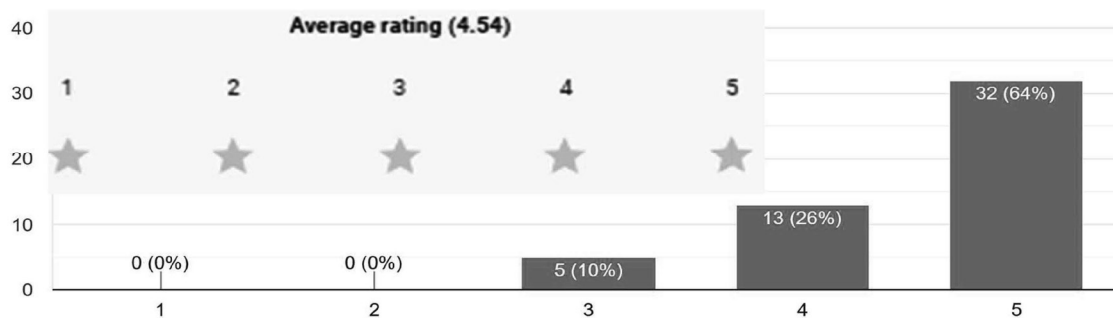


【1日目】 (2) 講義②と演習「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」
50件の回答



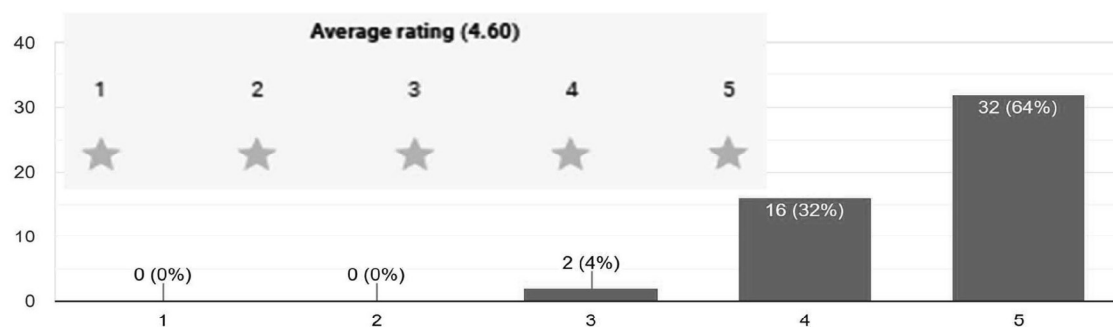
【1日目】 (3) 講義③と演習「支援員としての成長、専門性の形成を考える」

50件の回答



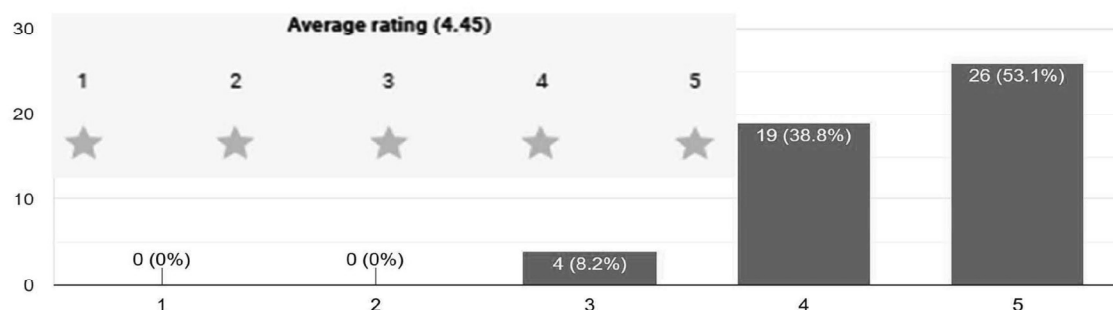
【1日目】 講義④と演習「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」

50件の回答



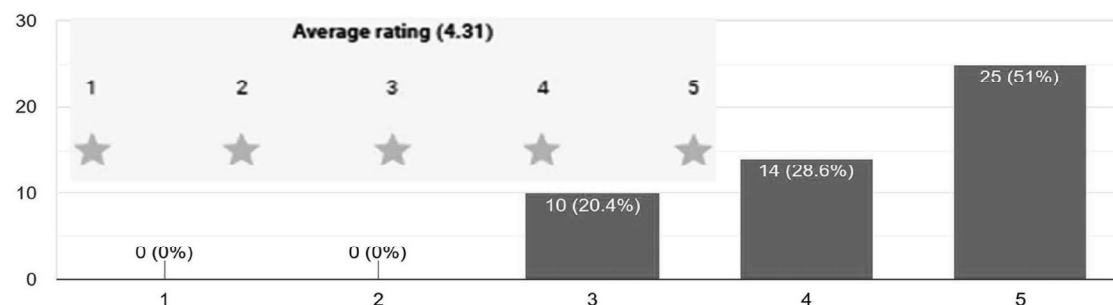
【2日目】 (1) 事例検討①②③の内容

49件の回答



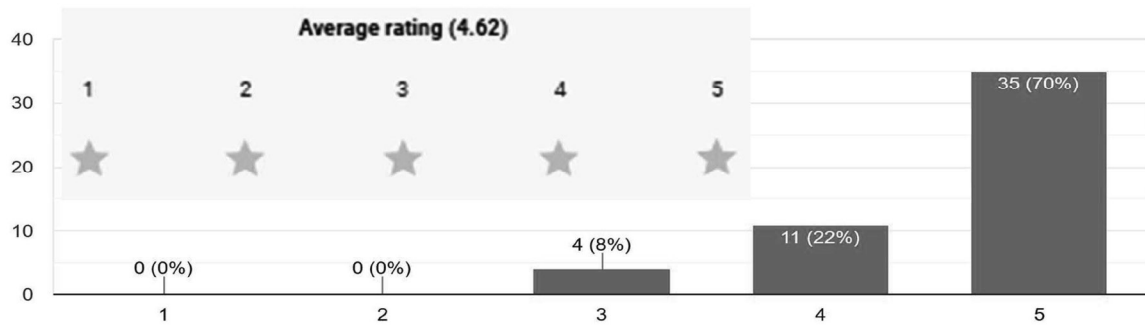
【2日目】 (2) 事例検討①②③の進め方について

49件の回答



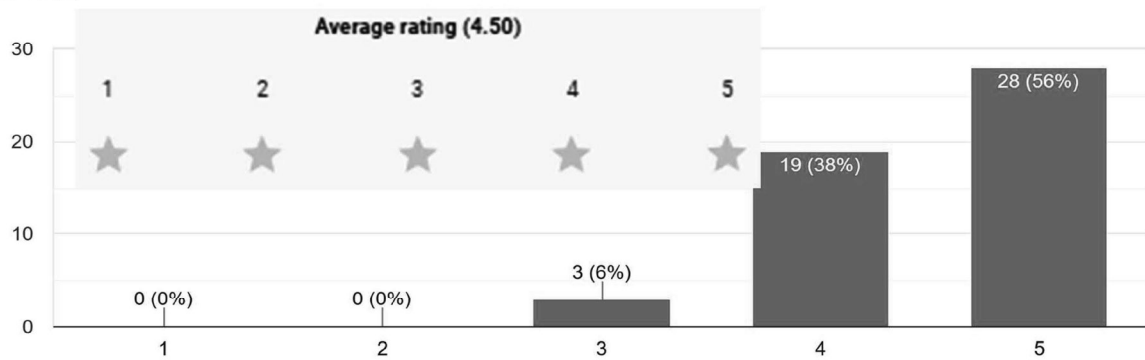
【全体】 (1) 全体を通した内容について

50 件の回答



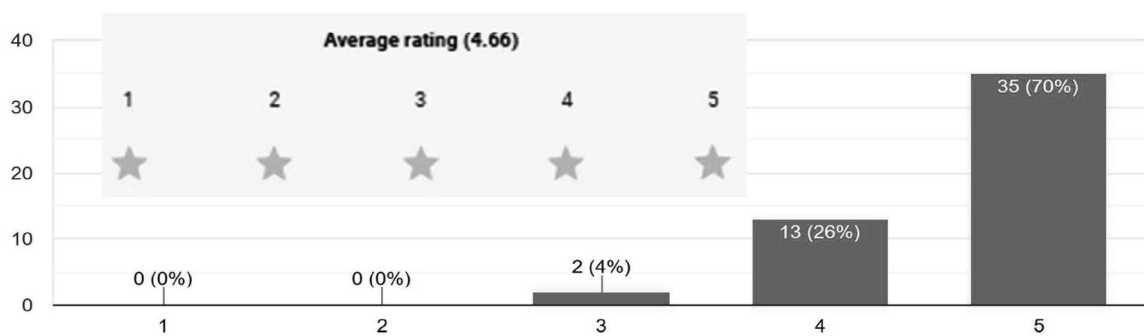
【全体】 (2) 全体を通した支援員との交流について

50 件の回答



【全体】 (3) 全体の運営について

50 件の回答



中国・四国ブロック	
1日目 講義①と演習 「制度の対象者の確認、2つの目標、8つの基本姿勢、5つの支援の形、3つの倫理について」	
制度の再確認ができ、改めて気持ちを引き締めて今後も支援していこうと思いました。基本姿勢について考えながら、どう対応すれば良いか悩むこともありましたが、今日の研修で考え方に発見もありました。今後の支援に活かしていけるよう努力しようと思います。	
自己決定が難しい相談者に対して、納得し自身で選択できるよう制度説明や選択肢の提示が改めて大切だと感じた。制度を相談者にあわせた説明をする上で、しっかりと理解していなければいけないと再認識した。	
既存の制度では対応できない困窮者へ包括的にアプローチするために生まれたシステムだということが分かった。枠にとらわれず必要な支援であれば現場から届けられることができると認識して、柔軟な発想で実践していきたい。	
対象者をありのままを認めること。先入観を持たず否定せず。難しいが、それにより対象者が心を開き信頼関係を築くことができると理解した。	
1日目 講義②と演習 「生活困窮者自立支援を通じた地域づくりの考え方」	
気の合う仲間できつなつた場が地域づくりにつながっていくことになる。ちょっとした関係づくりから広がっていくことになるので、まずは地域に何があるのかを見つけることから始めたい。	
今まで社協内の他機関や行政との連携が主だったが、もっと外に目を向けて他団体やインフォーマルな地域の社会資源と繋がる関係づくりが必要だと思いました。支援で使った社会資源を記録し一覧にし内部で共有したいと思いました。	
地域の特性を知り、その地域ならではの支援が地域を活性化するんだなと思いました。宇和島も日頃からのコミュニケーションを生かして、住民が「楽しく」「やれることをやっただけ」というのが印象に残りました。災害をみんなで支え合っ乗り越えようとの地域の温かさや優しさ、地域の力を感じました。日頃から仲がいいというのは強みだなと思いました。	
地域のネットワークの強化や地域のつながる地域力はとても重要でありいきなり大きいものを作るのではなく、こんなものがあつたらよいと思える資源やことつながれば更に支援の輪が広がるという視点で進めてみたいと感じました。	
1日目 講義③と演習 「支援員としての成長、専門性の形成を考える」	
自分のキャリアサーフ・シートを作成し、自分の良くない状態の部分を再認識できました。自分自身でしなければならないこと、職場としてしなければならないことが明確になったと思います。それをどうしていくかが今後の課題です。	
キャリアサーフ・シートが凄くいいなと思いました。ワークでお互いが発表したことで、相手が今何に悩んだり、興味をもっているのかが解り、それにより自分も分析もできた事が良かった。自分の状態を理解するために、時々このシートを使っていこうと思っている。	
支援員が専門職として成長していき、また、専門性を形成していくためには、現状を振り返り、次なるステップに向けた目標を立てることが大切となってくるため、自身の立ち位置を確認し、立ち止まる（振り返る）時間を大切に、次なるアクションへの見通しを立てていく様子をイメージしていけるように支援に活かしていきたいと思いました。	
1日目 講義④と演習 「支援員を支える仕組み～チーム支援と支援員のメンタルヘルス」	
事業所内すべての人がメンタルヘルスを考える機会を持つべきだと思います。みんなで学んだうえで全員が支え合う職場づくりをしたいと思いました。職場環境が良いことは一番の支えになります。	
職場全体で、支援の価値観を尊重し共有していけるよう普段から職員同士で対話を意識し、コミュニケーション作りに取り組んでいきたい。日頃のもやもやを吐き出したり、共有したりすることで、新たな視点やアイデアも生まれてくると思う。	
支援員のメンタルヘルスについてはこれまで余り考えて来なかったが、二次的外傷性ストレスやバーンアウト、逆転移に代理性心的外傷などを引き起こすことがあり、スーパービジョンなど、その対策やケアについて学ぶことができて良かった。	
2日目 事例検討の内容	
ひとつのケースに対して他の専門部署の方と密に意見交流出来る機会が良かった。立場から見えるものの違いを理解する上で良い経験だった。	
8つの基本姿勢と結びつく事例であった。ケースの整理。時系列で相談者の生活歴を整理する。本人のつながり（家族・親族、地域との関係）を俯瞰する。先に資源整理、連携先の役割・機能を集約しておく。家族支援の視点が弱かったため、支援の深さを感じさせられた。フォーマルな機関だけでなく、地域福祉コーディネーターなどの地域支援を担う職種とも考える場を試みたい。	
時系列や項目等様々な視点から整理し詳細に検討し直すと、新たに見える事があると思った。小さな疑問に気づき、見逃さないようにしたい。	
初回相談面談で、初めから自身の全てをありのままに話してくれる相談者は殆どいない。信頼関係の重要性、丁寧なアセスメント力、課題の優先順位のみたては非常に大切であると感じました。アセスメントを行う際にも支援者は常に「相談者本人の幸せとは何か」を考えていくことを忘れてはいけないことを学びました。	
2日目 事例検討の進め方	
自分の職場では自立・家計・就労の支援ができるがゆえに独自でもフットワーク軽く即時に動けることは良いと思いましたが、半面、枠の外を出ない支援で落ちついていないか、と振り返りました。改めて私たちが関わる相談者は複合的で複雑な問題を抱えている方たちなのだと感じました。多機関で関わり、伴走的な支援が必要であると改めて考えさせられました。	
限られた時間ではあったが、チームアプローチの展開を体感できる事例検討であった。各職種との対話、支援方針を決めていくプロセス等、今回の方法を実践の中でさらに高めていきたい。グループ発表・共有の中で、自分にはない視点等も気づかされた。	
グループワークをしていく中で、見立や連携先を考えることで、新たな気づきや、他市町や他事業のインフォーマルサービスや取り組みなどを聞くことが出来た。支援者視点の意見が中心になりがちで、本人や子どもの気持ちにも耳を傾けていけるような支援方法（相談者本人が幸せになる）に着目して考えていきたい。	
それぞれの得意分野での意見交換は非常に役立ちましたし、元のグループに戻り再度事例検討すると新たなアプローチも見えてきて非常に役立ちました。	
全体通しでの感想・意見	
今回の研修は、グループで話し合うことで沢山の気づきがありました。基本的な座学は必要だと思いますが、支援員同士が支援方法について、意見を出し合い検討することは、支援員の成長にも繋がると感じました。	
初めて県外での研修に参加しました。スケジュールでワークが多くて不安もありましたが、意外にグループワークが楽しかったです。同じ悩みがあったり、また違った視点に気付かされたりと新鮮でした。生活困窮のメンバーの熱が感じられたことが嬉しかったです。この研修で学んだことを少しでも活かせるようにしたいです。	
今回の研修では深い学びにつながる内容が多かった。事業所内の職員全員が初任者向けの研修を経て、次のステップとしてこの研修を受けていく意義を感じた。一人ひとりの支援者に対して共感・支持しあい、それぞれの専門的視点から相談者のよりよい生活につながるための対話の場の重要性を学んだ。	
グループワークが多く、実践に繋がったり、職場に持ち帰り、職場内で共有できそうな内容だった。相談者との対話はもちろんだが、職場内や支援機関、インフォーマルな資源の支援者や地域住民などとの対話も重要で大切にしたいと思った。自分のスケールで価値観を決めつけるのではなく、じっくり対話をしながら、本人の価値観や尊厳と自己決定を大切にしていきたい。相談者の言葉に耳を傾け、相談者に寄り添える相談員を目指したい。	

